

II テーマ分析

体力向上に向けた 体育科・保健体育科の授業改善

ここでは、体力合計点と児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の結果から、体力合計点が高い児童生徒や学校の体育・保健体育授業に関わる質問紙の回答状況に注目した。体育・保健体育授業において、授業の中でいつも「できた」、「わかった」と実感している児童生徒ほど、体力合計点が高い傾向にあることや、組織的に授業改善を進めている学校ほど、体力合計点が高い傾向にあった。ポイントは次のとおりである。

- Point 1 体育・保健体育授業における指導の手立ての工夫により、「できた」、「わかった」を実感している児童生徒ほど体力合計点が高い。
- Point 2 体力合計点が上位の都府県に比べ、授業の中でいつも「できた」、「わかった」と実感している児童生徒の割合が低い。
- Point 3 体育・保健体育授業における指導の手立ての工夫により、「できた」、「わかった」を実感している児童生徒ほど、体育・保健体育の授業において進んで学習している。

(1) 体育・保健体育授業における教師の指導の手立てと児童生徒の「できた」、「わかった」の実感との関係 ※上位都府県の値は参考値

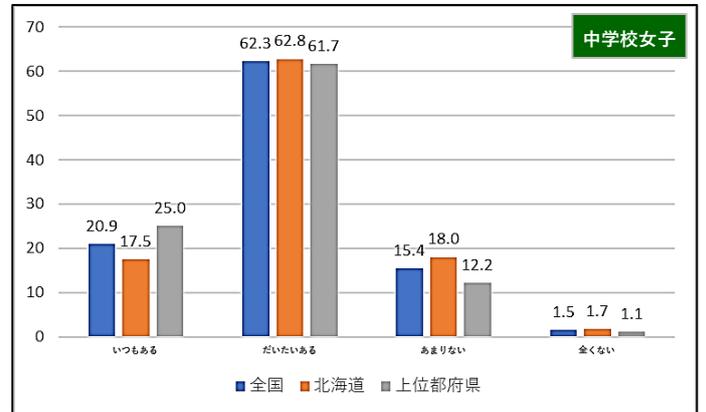
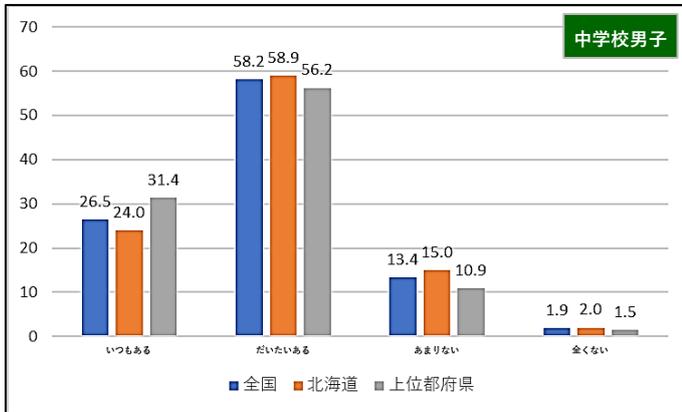
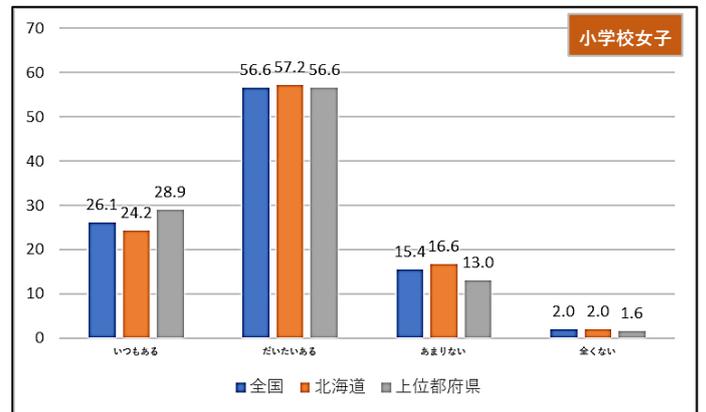
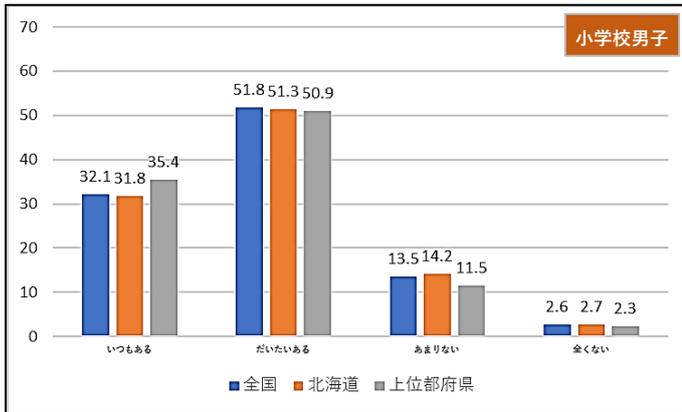
■ 児童生徒質問紙調査結果から見た本道の体育・保健体育授業の現状についての分析

- 多くの項目（授業中におけるICTの活用成果の項目を除く）において、道内の児童生徒の80%以上が、「できた」、「わかった」と肯定的な回答をしている。
- 中学校男女においては、授業でICTを活用することにより、「できた」、「わかった」を実感していると肯定的に回答している生徒の割合が、全国と比較して高い状況にある。
- 小・中学校男女ともに、授業中のICTの活用成果の項目において、「ICTを活用していない」と回答している割合が、全国や上位都府県と同等もしくは全国よりも低い状況である。
- 小・中学校ともに、授業を通して「できた」、「わかった」を実感している児童生徒の割合が全国と比較して低い状況にあるとともに、体力合計点が上位の都府県と比較すると、全国との差よりもさらに差が開いている状況である。

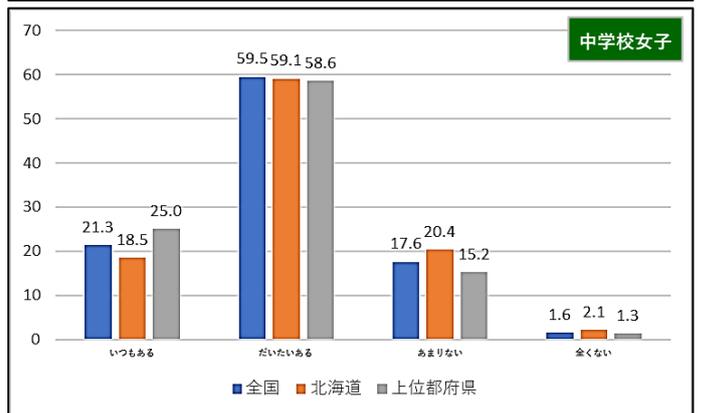
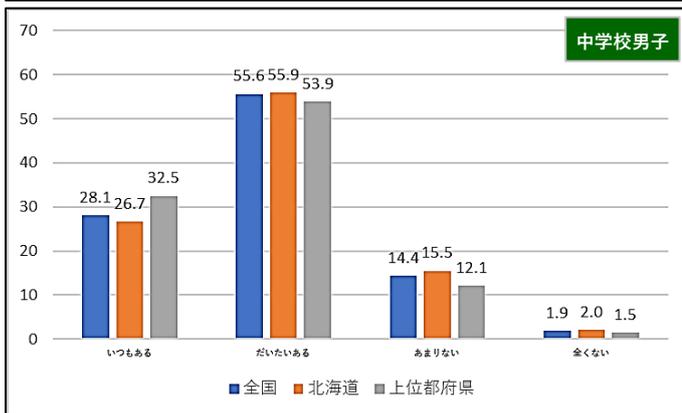
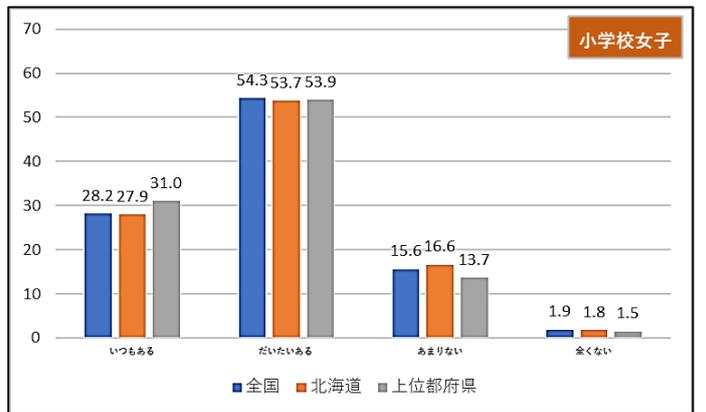
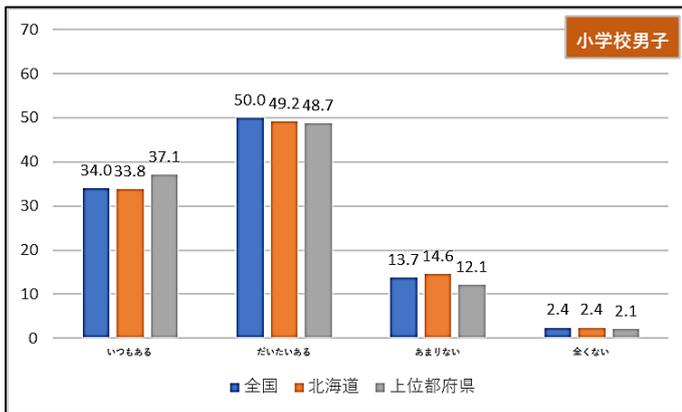
体力合計点が高い都府県（以下、上位都府県）においては、児童生徒質問紙調査の授業に関わる各項目において高い結果となっていることから、体力の向上と「できた」、「わかった」を実感できる授業の実現には相関があることが考えられる。このことから、本道の児童生徒の体力向上に向けた取組の柱の1つとして、体育科・保健体育科の授業改善を一層推進していくことが必要である。

また、本道の体育・保健体育授業におけるICTの活用状況の割合は、全国平均や上位都府県よりも高い傾向にあるが、ICTを活用することで、「できた」、「わかった」と肯定的に回答している割合が50%程度であることから、「できた」、「わかった」につながるICTの効果的な活用について、実践を深めていく必要がある。

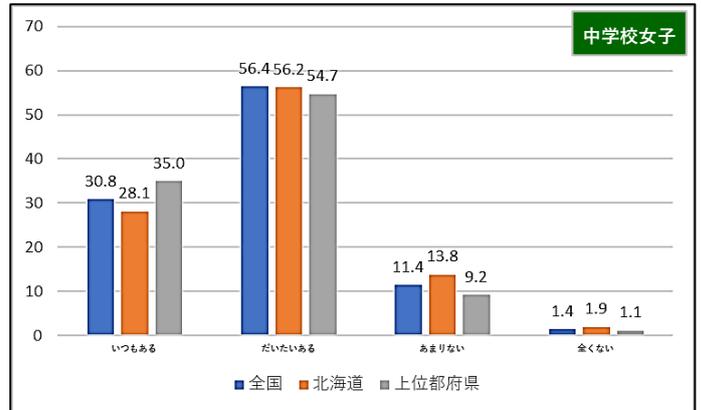
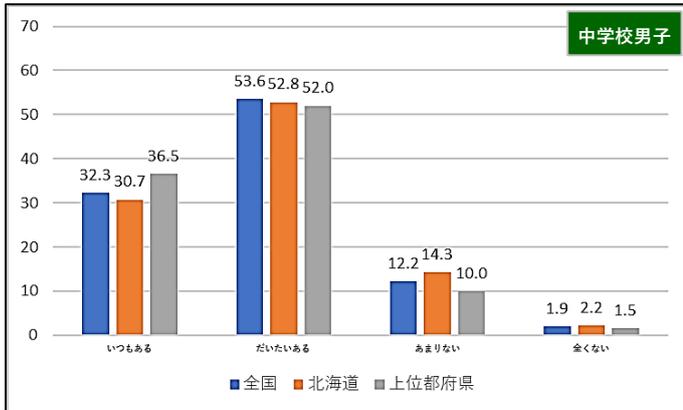
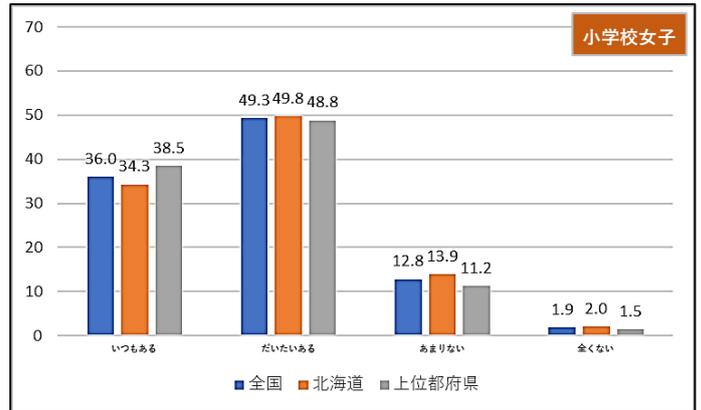
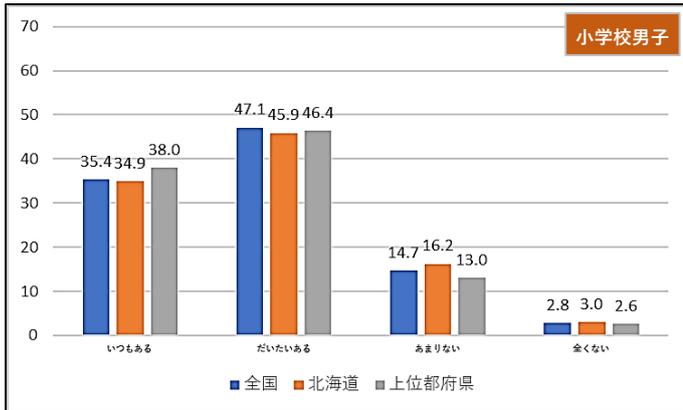
①「体育・保健体育の授業で、目標（ねらい・めあて）を意識して学習することで、『できたり、わかったり』することがあるか」



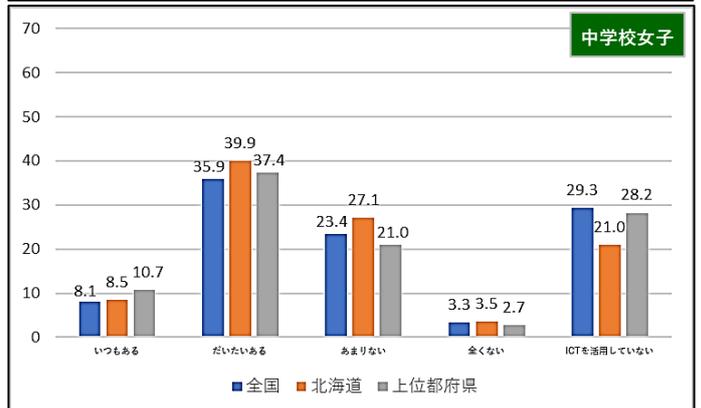
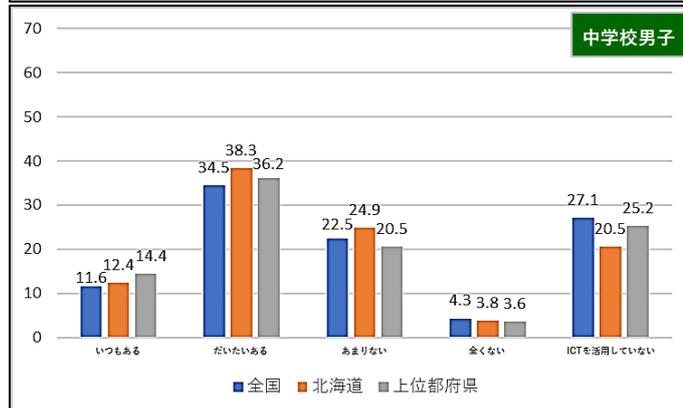
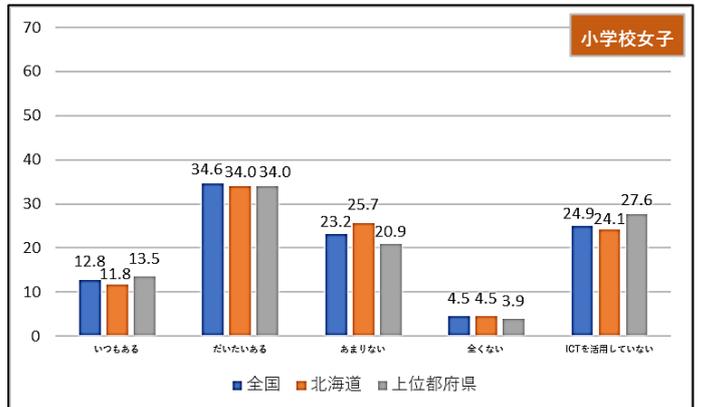
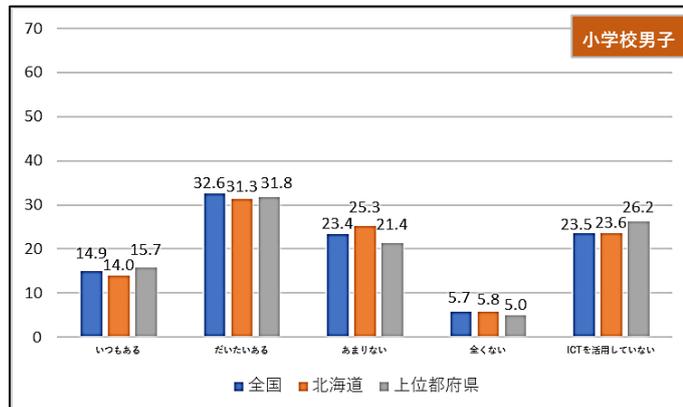
②「体育・保健体育の授業で、自分に合った練習の方法を選んで学習することで、『できたり、わかったり』することがあるか」



③「体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、『できたり、わかったり』することがあるか」



④「体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、『できたり、わかったり』することがあるか」



(2) 児童生徒質問紙調査の体育・保健体育授業に関わる項目の回答と体力合計点の関係

■ 体育・保健体育授業に関わる項目の回答と体力合計点の関係についての分析

- 小学校男女においては、全ての項目において、「できたり、わかたり」することが「いつもある、だいたいある」と肯定的に回答している群において、体力合計点が全国平均を上回っている。
- 中学校男女においては、ICTの活用に関わる項目及び中学校女子の協働的な学びに関わる項目を除き、「できたり、わかたり」することが「いつもある」と回答している群においてのみ、体力合計点が全国平均を上回っている。
- 中学校男女においては、ICTの活用成果と体力合計点の関わりにおいて、全国平均を上回っている群がない状況である。

小学校男女では、肯定的回答群において、体力合計点が全国平均を上回っていることから、教師の指導の手立てが、児童の「できる」、「わかる」保健体育授業の実現や、体力向上につながっていると考えられる。

一方、中学校男女においては、「いつもある」と回答している群でのみ、全国平均を上回る結果であることから、「できた」、「わかった」を実感する保健体育授業の実現に向け、一層の質の向上を図っていく必要があると考えられる。

また、保健体育授業におけるICTの活用頻度は多いものの、活用が成果につながっていない現状が見られることから、前頁同様、「できた」、「わかった」につながるICTの効果的な活用について、実践を深めていく必要があると考えられる。

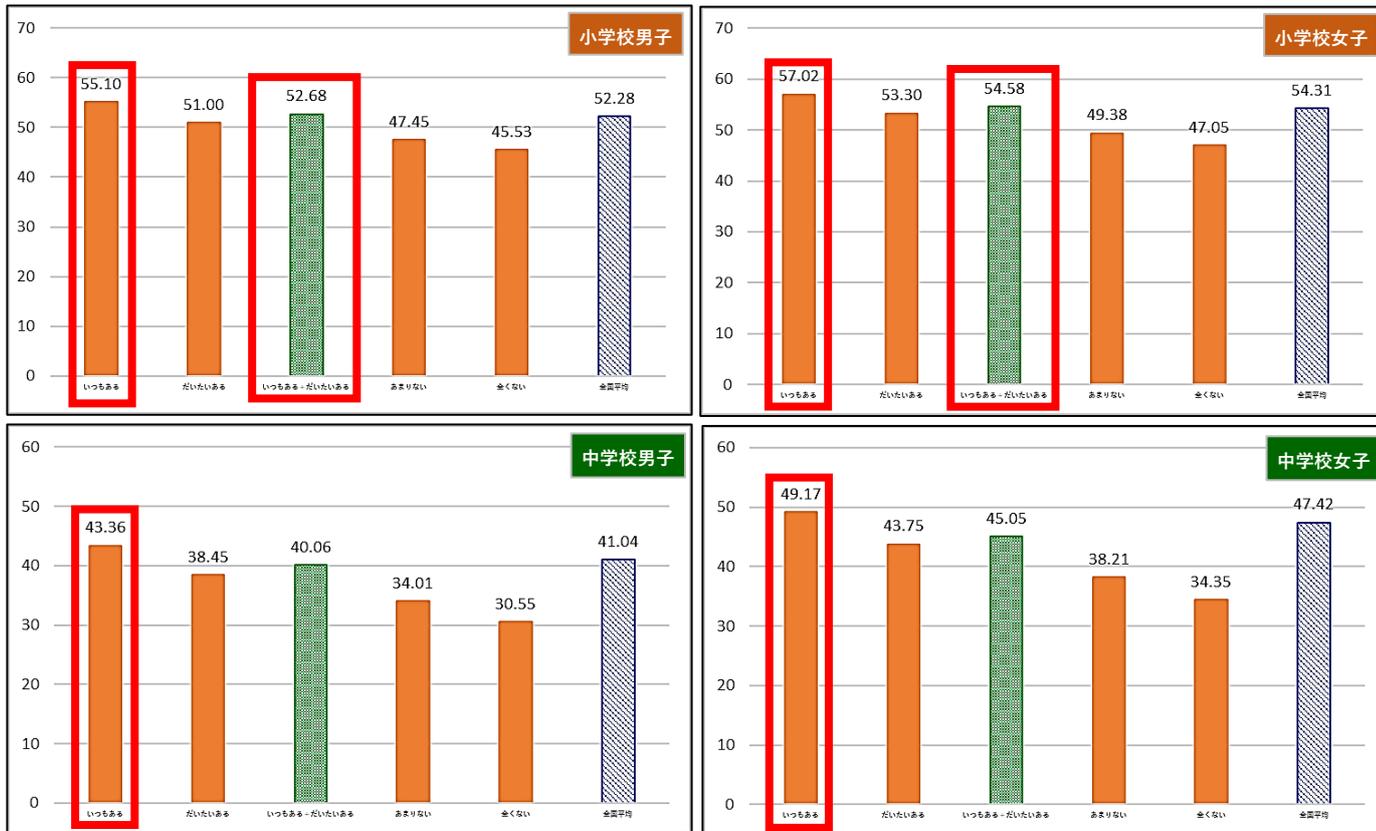
① 「体育・保健体育の授業で、目標（ねらい・めあて）を意識して学習することで、『できたり、わかたり』することがあるか」という項目の回答と体力合計点の関係

※オレンジ：項目ごとの体力合計点 緑：肯定的回答群における体力合計点 青：体力合計点の全国平均



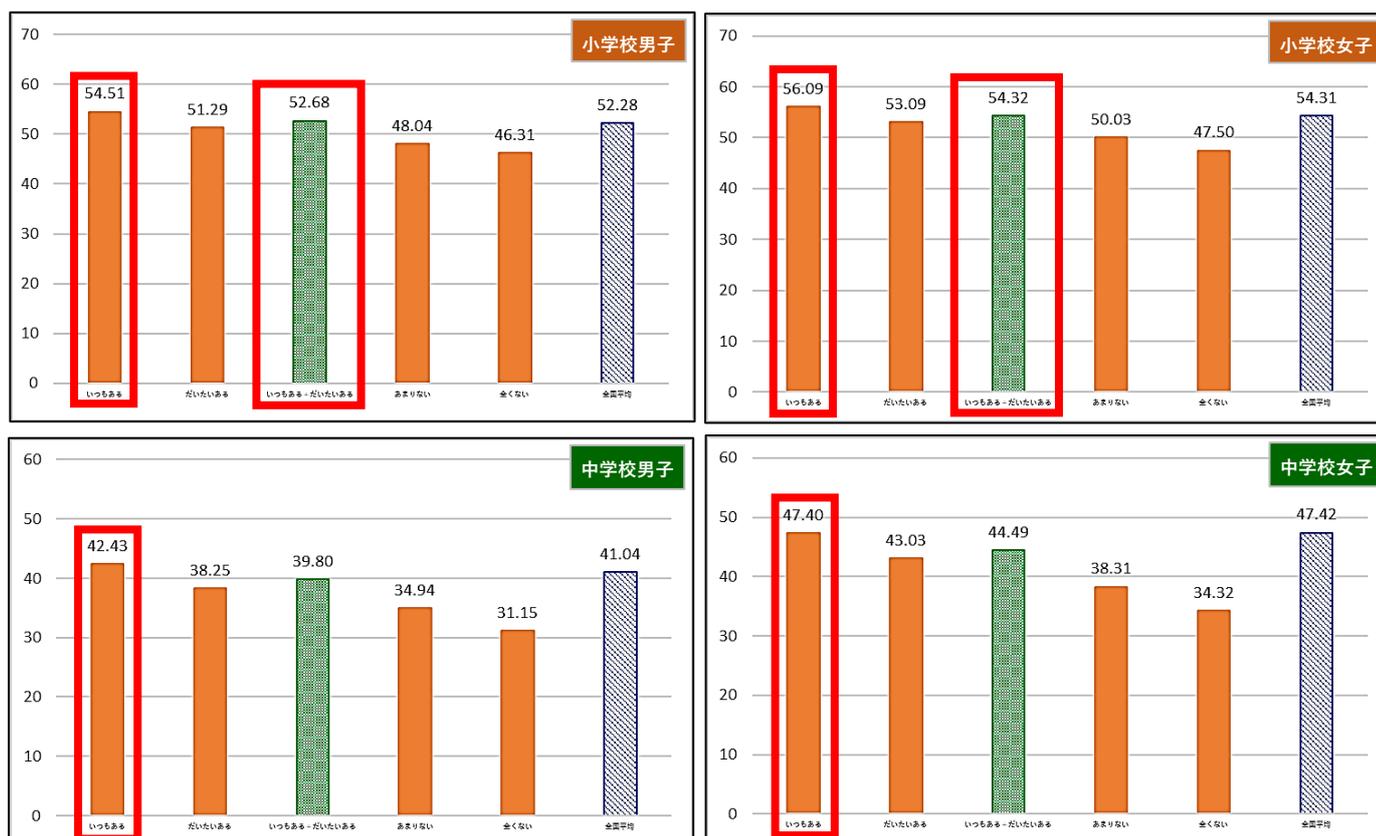
② 「体育・保健体育の授業で、自分に合った練習の方法を選んで学習することで、『できたり、わかったり』することがあるか」という項目の回答と体力合計点の関係

※オレンジ：項目ごとの体力合計点 緑：肯定的回答群における体力合計点 青：体力合計点の全国平均



③ 「体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、『できたり、わかったり』することがあるか」という項目の回答と体力合計点の関係

※オレンジ：項目ごとの体力合計点 緑：肯定的回答群における体力合計点 青：体力合計点の全国平均



④「体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、『できたり、わかったり』することがあるか」という項目の回答と体力合計点の関係
 ※オレンジ：項目ごとの体力合計点 緑：肯定的回答群における体力合計点 青：体力合計点の全国平均



体育科における1人1台端末を効果的に活用した授業改善のポイント

①「知識及び技能」の習得の場面
 技ごとの動画を繰り返し視聴したり、スローで再生したり、前時までの動きと比較したりすることにより、運動の行い方の理解が深まり、技能の習得を図ることができます。

②「思考力、判断力、表現力等」の育成の場面
 各自の視点でゲームの撮影動画を確認し、自己や友達の課題を発見したり、練習方法を工夫・改善したりすることにより、自己の考えを深めて対話することができます。

③「学びに向かう力、人間性等」の涵養の場面
 過去の自分の記録や動き、単元の学習履歴を確認させるなど、自己の変容に気付かせる場面を設定することにより、運動に対する愛好的な態度の涵養につなげることができます。

効果的に活用した授業改善のポイント

1. 動画で動きを確認
2. 動画を重ねて動きを比較

→ 動画を確認し、手本となる動きを比較することにより、運動の行い方を理解することができます。

→ 各自の視点で撮影した動画を確認し、自分や仲間との課題を発見したり、練習方法や作戦の工夫・改善点を整理したりすることにより、自己の考えを深めて対話することができます。

→ 過去の自分の記録や動き、単元の学習履歴を確認させるなど、自己の変容に気付かせる場面を設定することにより、運動に対する愛好的な態度の涵養につなげることができます。

【参考資料】
 ・GIGAスクール構想のもとでの小学校体育科の指導について（文部科学省）

・StuDX Style
 各教科等における1人1台端末の活用
 各教科等での活用【小学校 体育】（文部科学省）

【参考資料】
 ・GIGAスクール構想のもとでの中学校保健体育科の指導について（文部科学省）

・StuDX Style
 各教科等における1人1台端末の活用
 各教科等での活用【中学校 保健体育】（文部科学省）

(3) 児童生徒質問紙調査における体育・保健体育授業に関わる項目と体力合計点総合評価のクロス集計

■ 体育・保健体育授業に関わる質問紙調査項目の回答と体力合計点総合評価の関係及び質問紙調査項目同士の関係についての分析

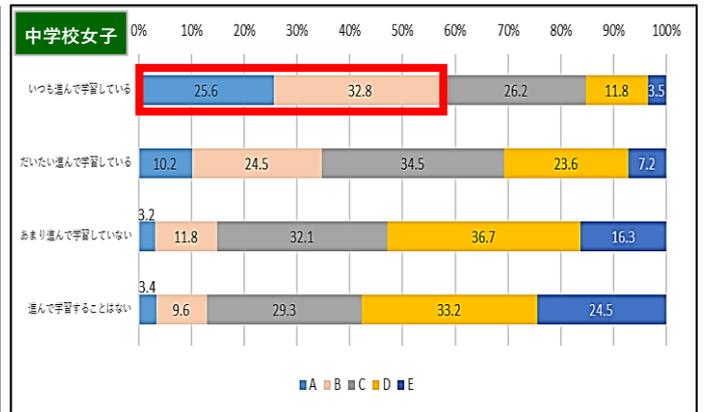
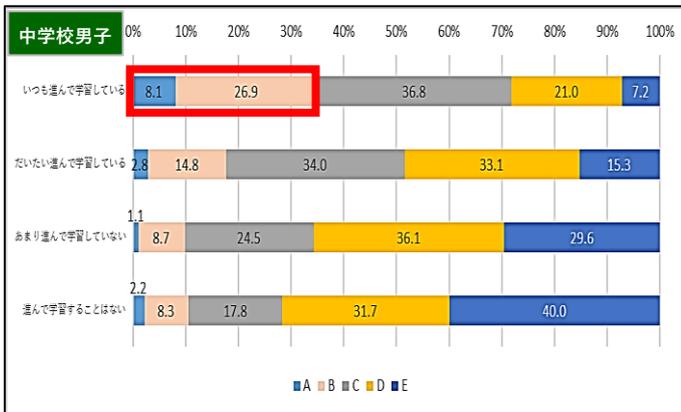
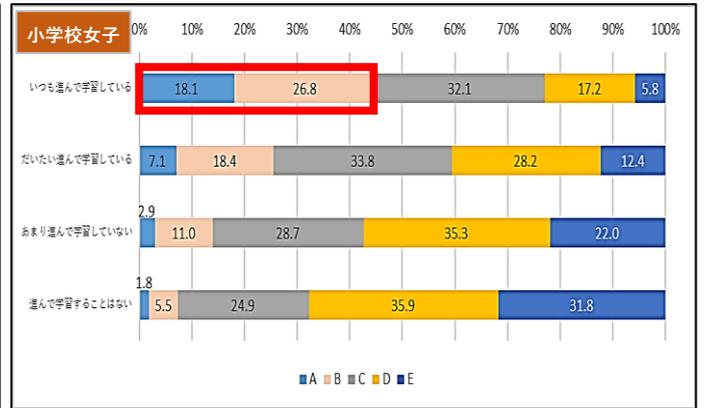
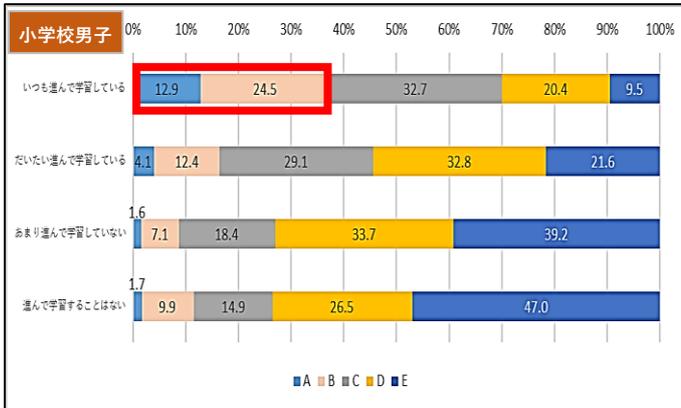
- 小・中学校男子では、全ての項目で「できたり、わかったり」することが「いつもある」と回答している群において、体力合計点総合評価 A・B群の児童生徒の割合がC・D群を上回っている。
- 小・中学校女子では、「進んで体育・保健体育の学習をしている」を除く全ての項目で「できたり、わかったり」することが「いつもある・だいたいある」と肯定的に回答している群において、体力合計点総合評価 A・B群の児童生徒の割合がC・D群を上回っている。
(※「進んで体育・保健体育の学習をしている」においては、「いつもある」と回答している群において、体力合計点総合評価 A・B群の児童生徒の割合が C・D群を上回っている。)
- 小・中学校男女ともに、全ての項目で「できたり、わかったり」することが「いつもある」と回答している群においては、「体育・保健体育の授業が楽しい」と回答している児童生徒の割合が最も高い。
その中でも、小学校男子では、「目標（ねらい・めあて）を意識して学習することで『できたり、わかったり』することがある」という項目、小学校女子及び中学校男女では、「自分に合った練習方法を選んで学習することで『できたり、わかったり』することがある」という項目における「いつもある」と回答している群において、「体育・保健体育の授業が楽しい」と回答している児童生徒の割合が最も高い。
- 体力合計点 T 得点が 50 以上の学校と 50 以下の学校の児童生徒における各項目の回答状況を比較すると、小・中学校男女ともに、全ての項目において、T 得点 50 以上の学校のほうが「できたり、わかったり」することが「いつもある・だいたいある」と肯定的に回答している児童生徒の割合が高い。
- 各項目について肯定的に回答している児童生徒において、体力合計点総合評価が A・B群と D・E群の「できなかったことができるようになったきっかけ」の回答状況を比較すると、A・B群と D・E群ともに、「先生や友達の真似をしてみた」、「友達に教えてもらった」と回答している児童生徒の割合が高い。
その中でも、小学校男女においては、「授業中に自分で工夫して練習した」、「授業外の時間に自分で練習した」と回答した割合が、中学校男女においては、「授業中に先生にコツやポイントを教えてもらった」、「授業中に自分で工夫して練習した」という項目において、A・B群と D・E群との間に差が見られる。
- 「タブレットなどの ICT を使って学習することで『できたり、わかったり』することがある」という項目において、小・中学校男女ともに「できたり、わかったり」することが「いつもある・だいたいある」と肯定的に回答している児童生徒ほど体力合計点総合評価が高い一方、小・中学校ともに 20%以上の学校が「ICT を活用していない」と回答している。

小・中学校男女ともに、体育・保健体育の授業において、「できた、わかった」を実感している児童生徒ほど、体力合計点が高い結果であった。その中でも、児童生徒に「目標を意識させること」、「自己の課題に応じた練習方法を選んで学習すること」により、児童生徒が「できた、わかった」をより実感している傾向にあった。

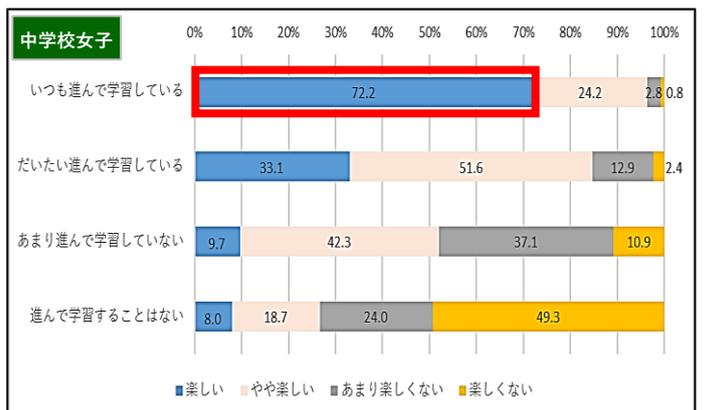
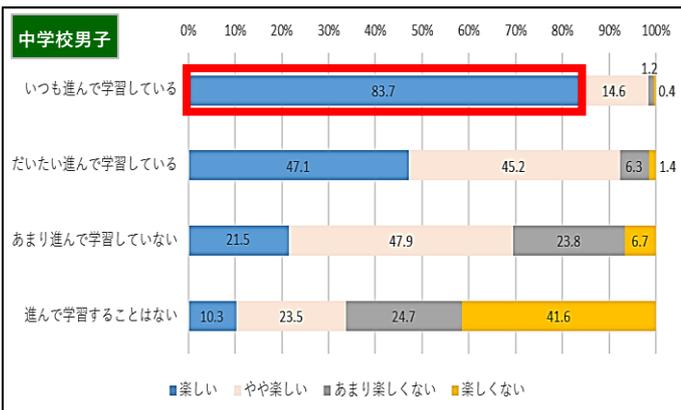
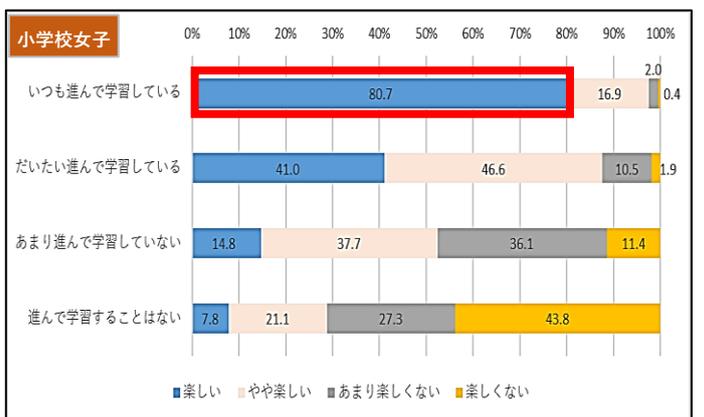
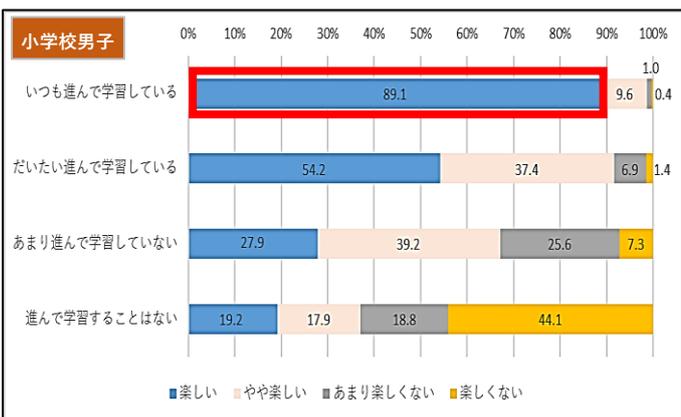
また、各質問項目の回答状況における総合評価 A・B群と D・E群の「できなかったことができるようになったきっかけ」を比較すると、「授業中に自分で工夫して練習した」と回答した割合に大きな差が見られるとともに、中学校男女において、小学校男女と比較し、「授業中に先生にコツやポイントを教えてもらった」の項目において、両群の差が広がっている。

【進んで体育・保健体育の学習に参加している×各項目のクロス集計】

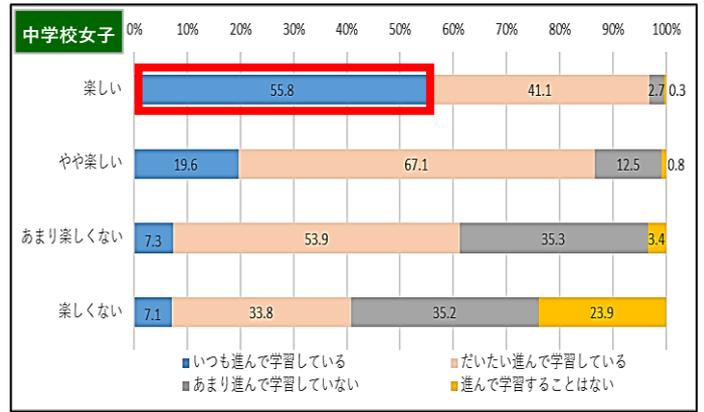
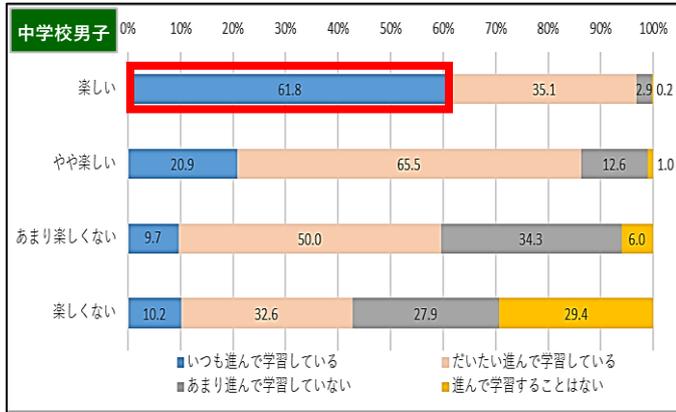
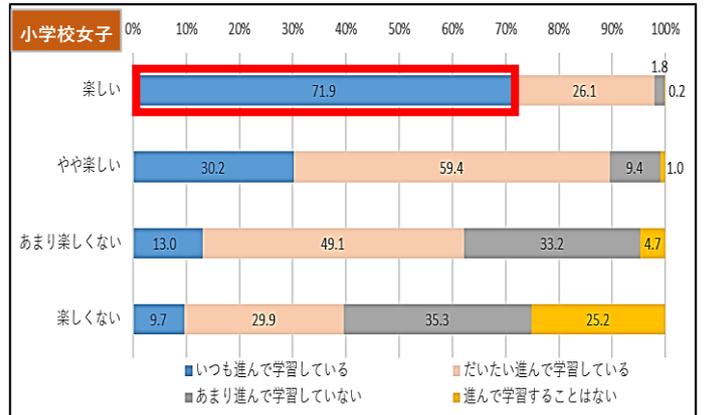
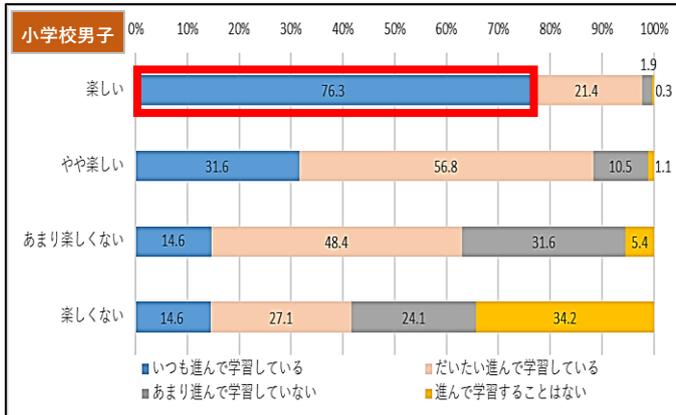
① 「体育・保健体育の授業では進んで学習に参加しているか」という項目の回答と体力合計点総合評価の関係



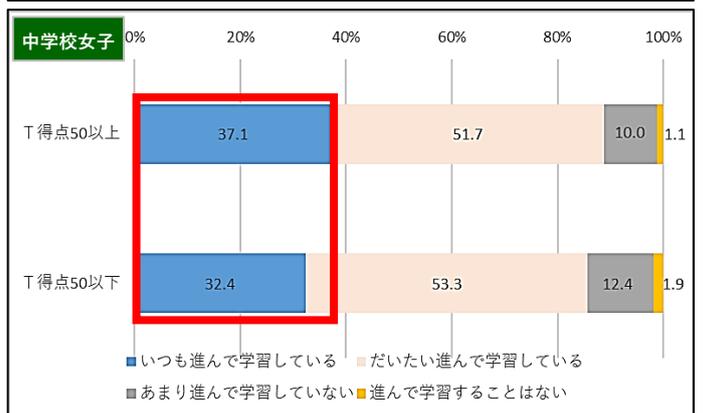
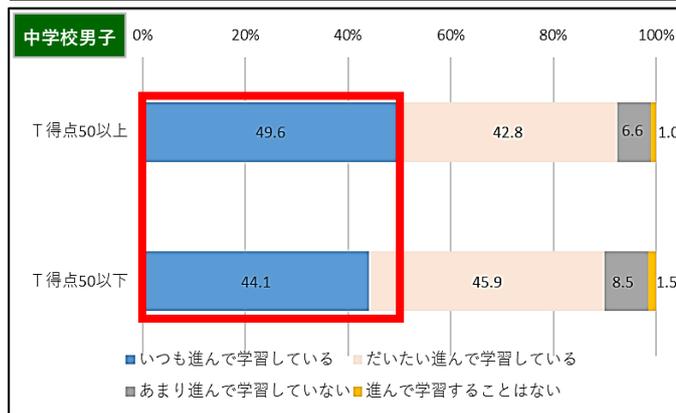
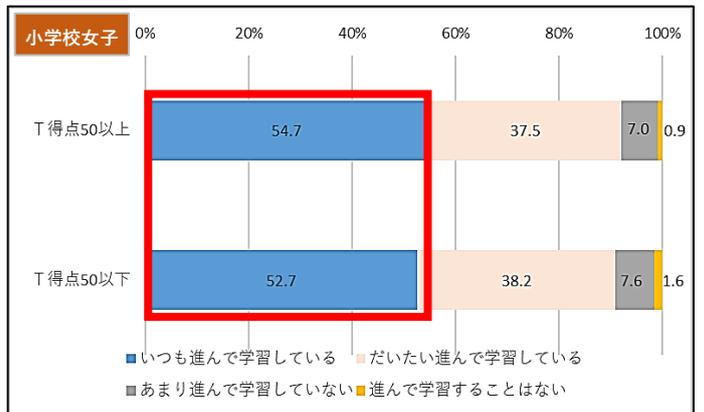
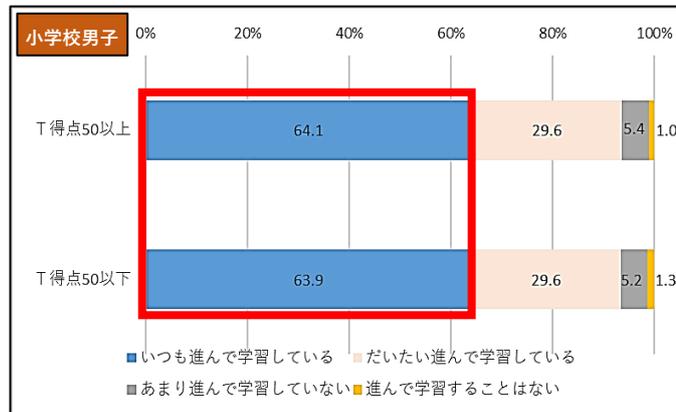
② 「体育・保健体育の授業では進んで学習に参加しているか」という項目の回答と「体育・保健体育の授業は楽しいか」という項目の回答とのクロス集計



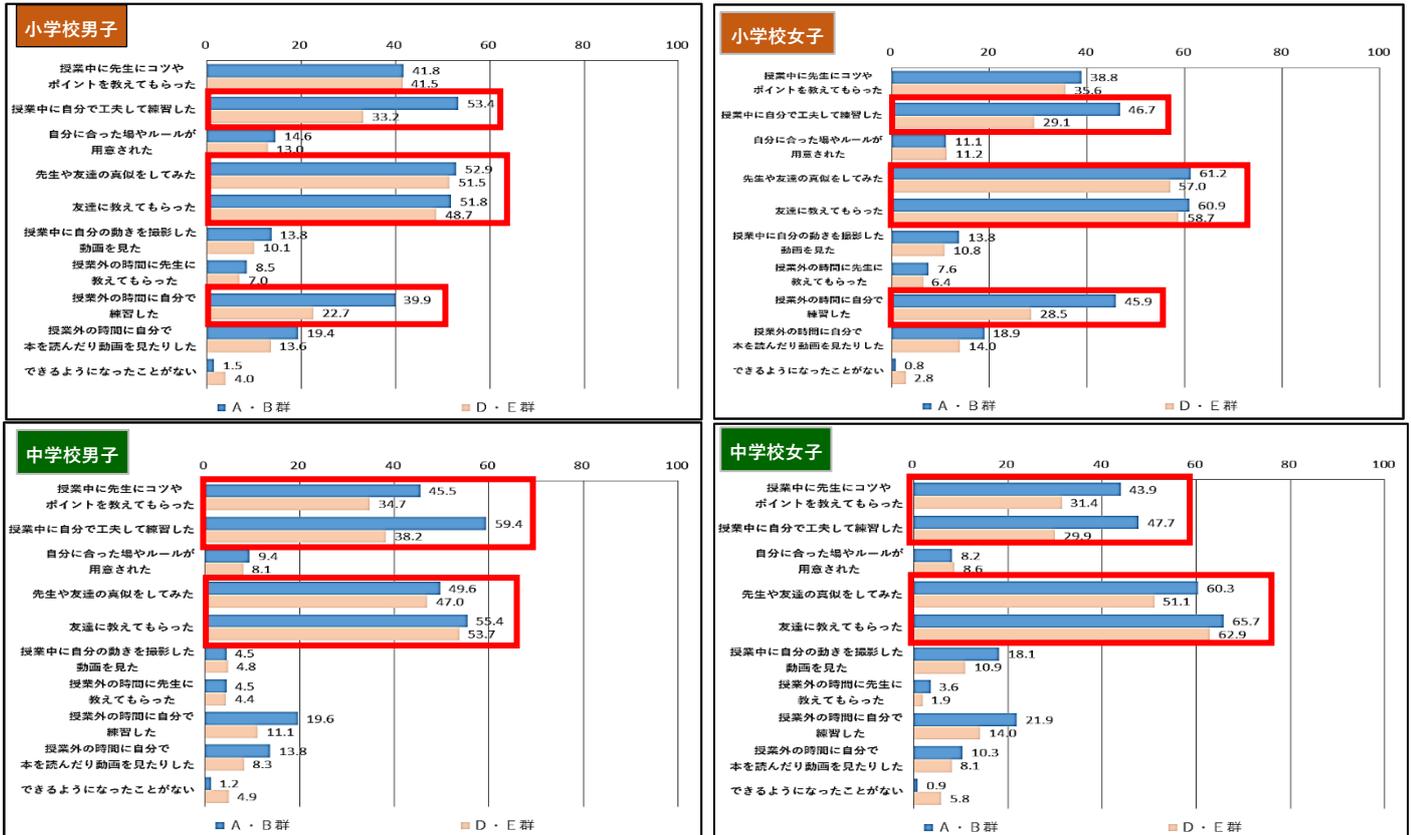
③「体育・保健体育の授業は楽しいか」という項目の回答と「体育・保健体育の授業では進んで学習に参加しているか」という項目の回答とのクロス集計



④各学校の体力合計点と全国平均との関係と「体育・保健体育の授業では進んで学習に参加しているか」という項目の回答とのクロス集計

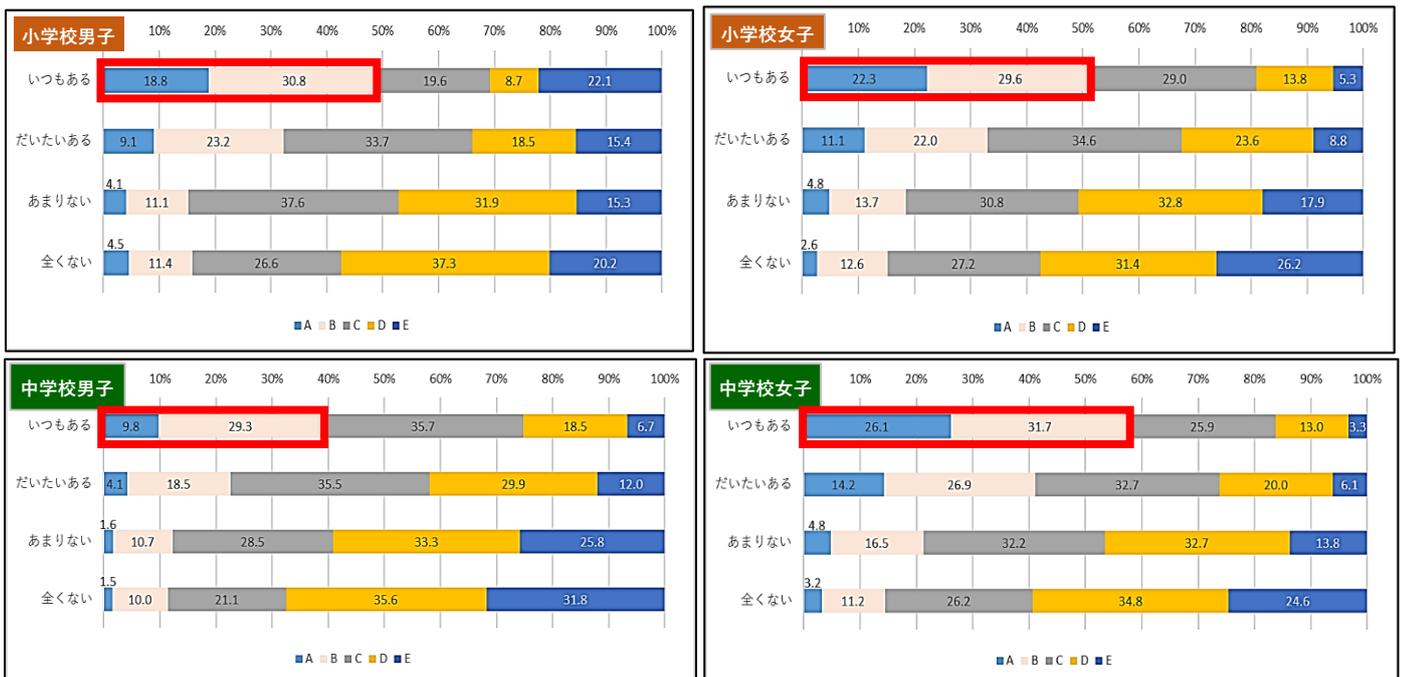


⑤ 「体育・保健体育の授業では進んで学習に参加しているか」という項目に対する肯定的回答の中の体力合計点総合評価A・B層及びD・E層と「体育・保健体育の授業で『できなかったことができるようになったきっかけ、理由』」の項目の回答とのクロス集計

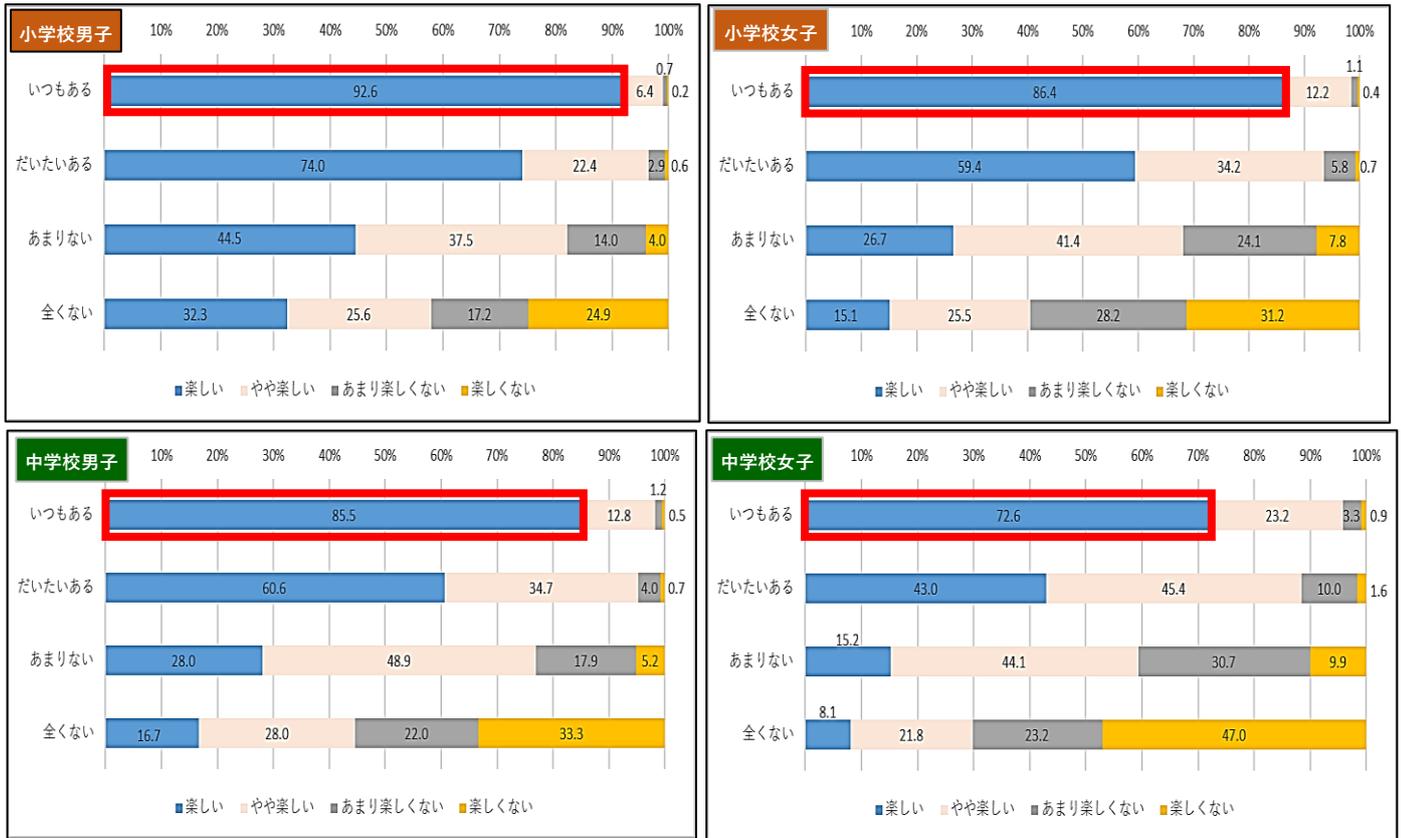


【目標（ねらい・めあて）を意識して学習することで「できたり、わかったり」することがある×各項目のクロス集計】

⑥ 「体育・保健体育の授業で、目標（ねらい・めあて）を意識して学習することで、『できたり、わかったり』することがあるか」という項目の回答と体力合計点の関係



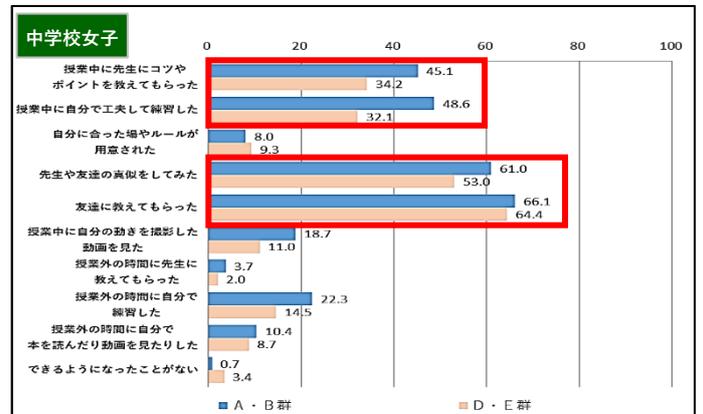
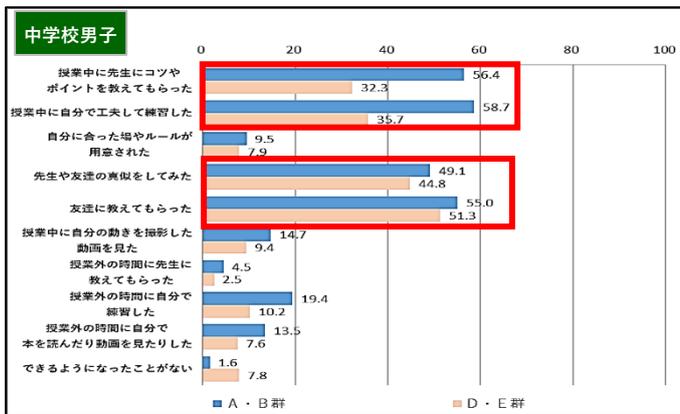
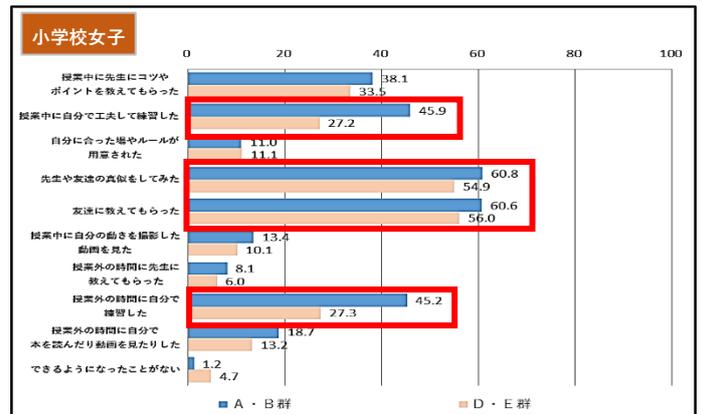
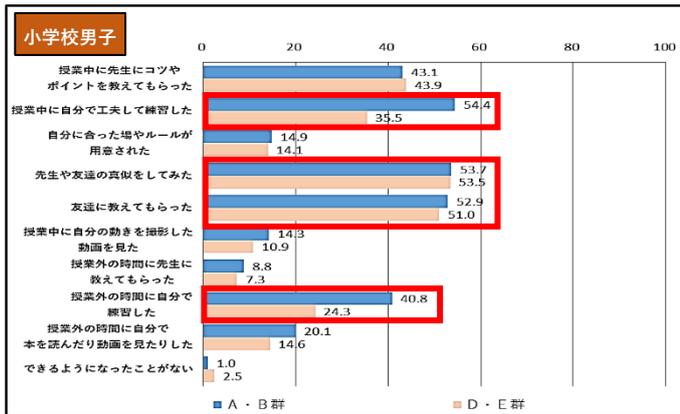
⑦「体育・保健体育の授業で、目標（ねらい・めあて）を意識して学習することで、『できたり、わかったり』することがあるか」という項目の回答「体育・保健体育の授業の授業は楽しいか」という項目の回答とのクロス集計



⑧各学校の体力合計点と全国平均との関係と「目標（ねらい・めあて）を意識して学習することで、『できたり、わかったり』することがあるか」という項目の回答とのクロス集計

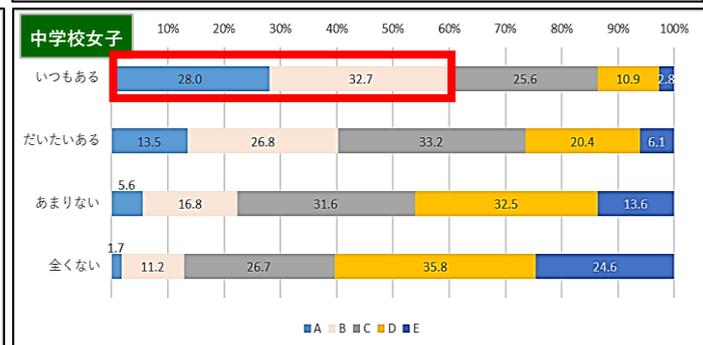
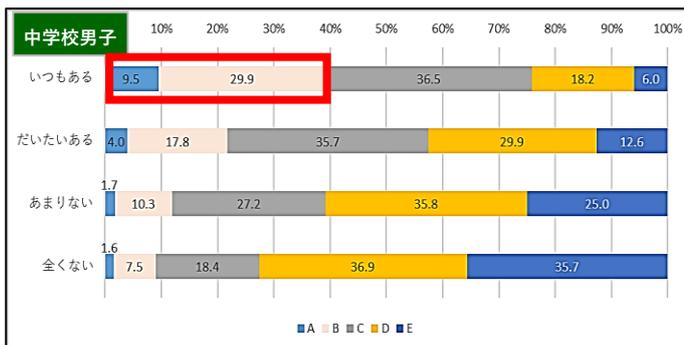
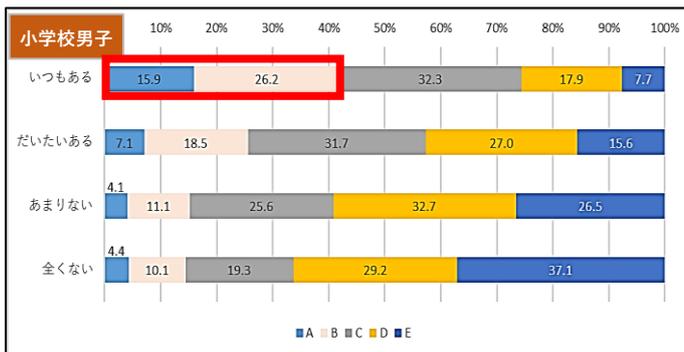


⑨ 「目標（ねらい・めあて）を意識して学習することで、『できたり、わかったり』することがあるか」という項目に対する肯定的回答の中の体力合計点総合評価A・B層及びD・E層と「体育・保健体育の授業で『できなかったことができるようになったきっかけ、理由』」の項目の回答とのクロス集計

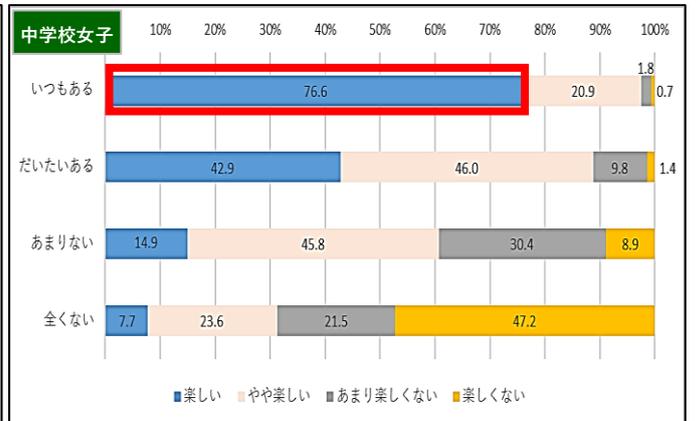
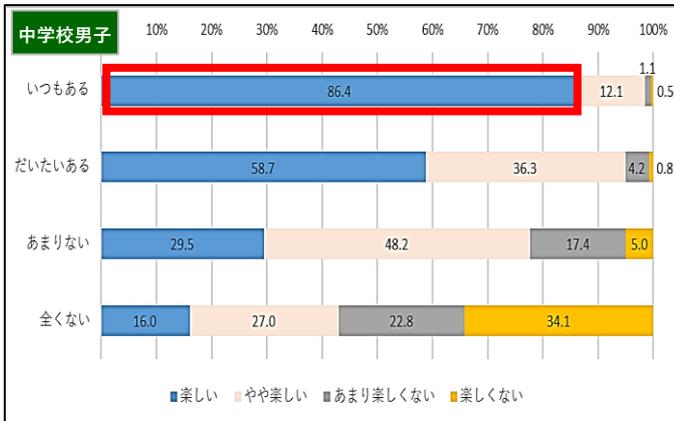
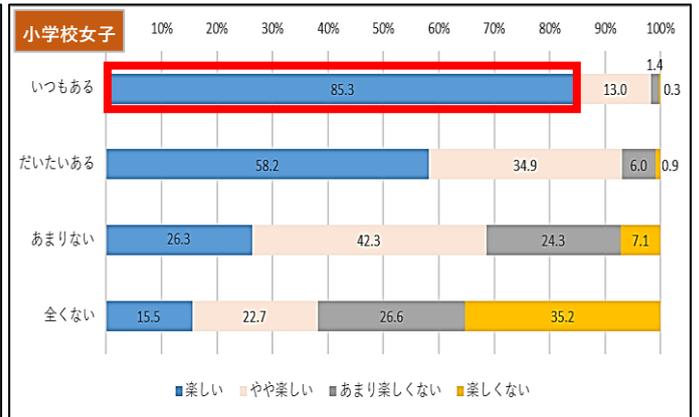
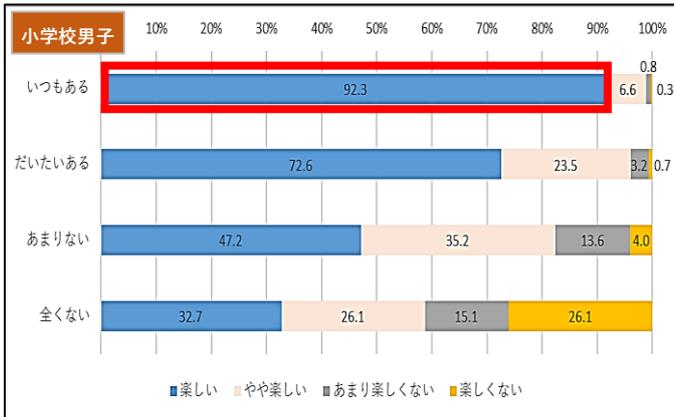


【自分に合った練習方法を選んで学習することで「できたり、わかったりする」ことがある×各項目のクロス集計】

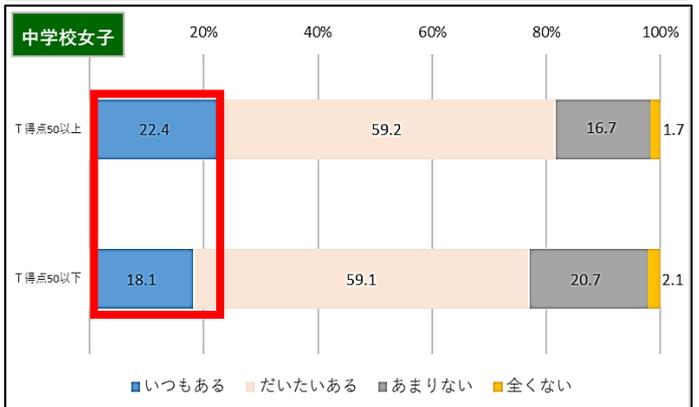
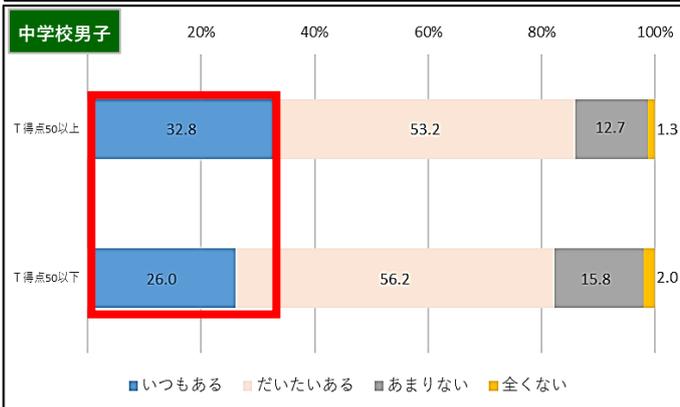
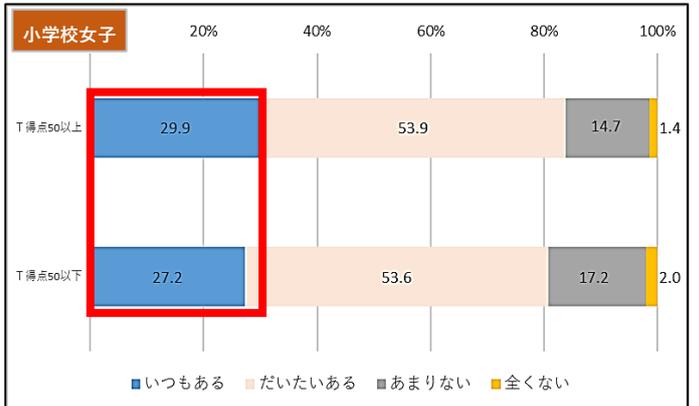
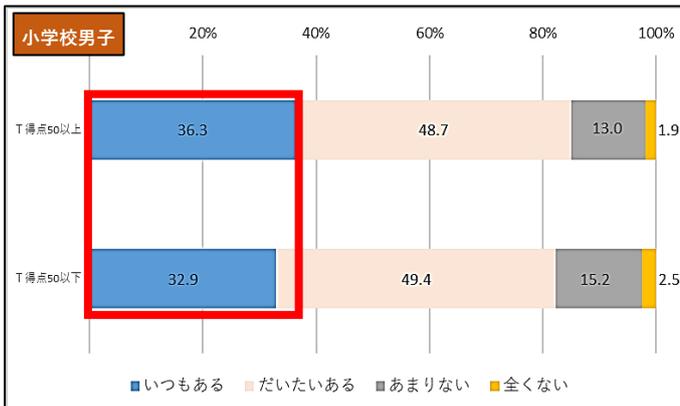
⑩ 「自分に合った練習の方法を選んで学習することで『できたり、わかったりする』ことがあるか」という項目の回答と体力合計点の関係



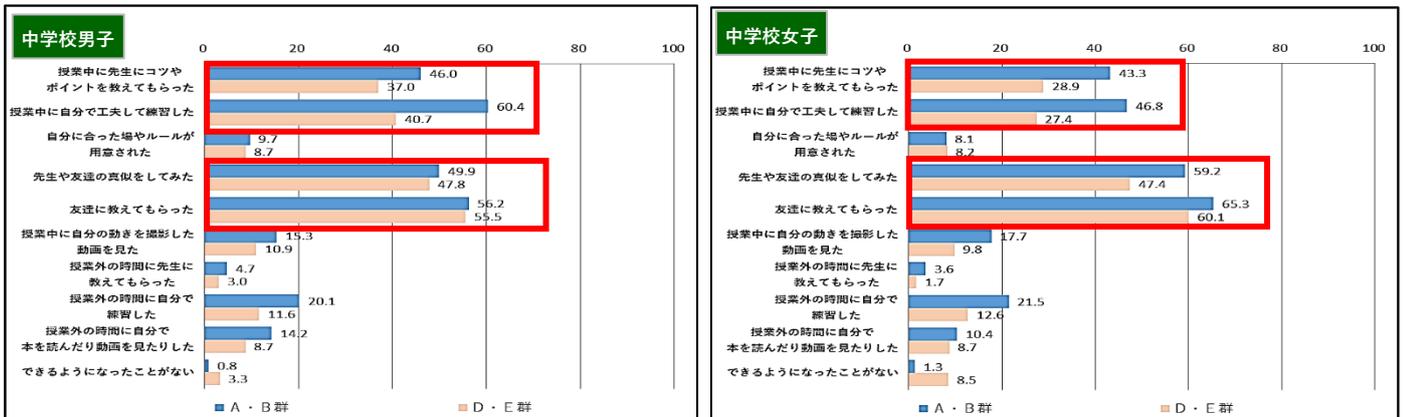
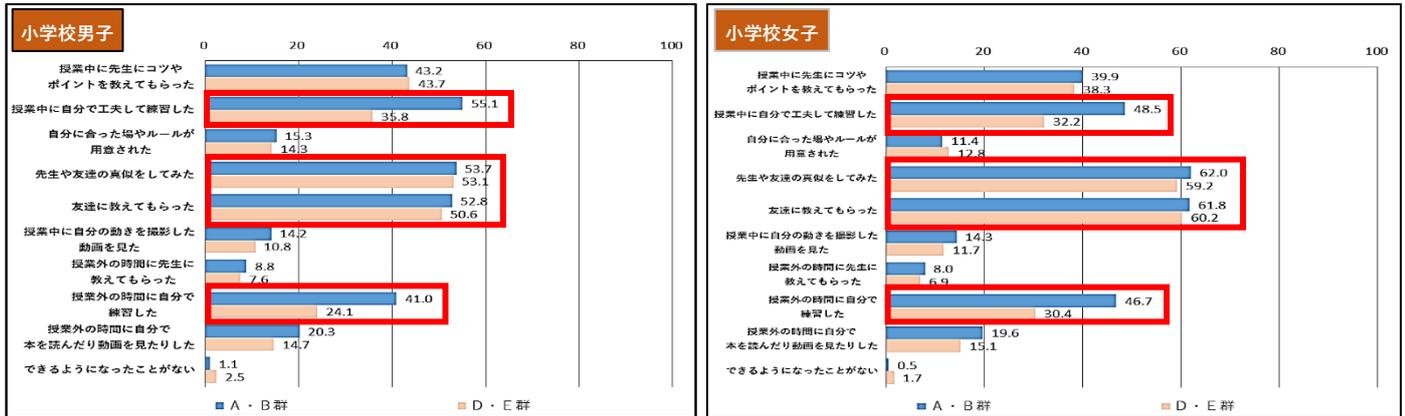
⑪ 「自分に合った練習の方法を選んで学習することで『できたり、わかったりする』ことがあるか」という項目の回答と「体育・保健体育の授業の授業は楽しいか」という項目の回答とのクロス集計



⑫ 各学校の体力合計点と全国平均との関係と「自分に合った練習の方法を選んで学習することで『できたり、わかったりする』ことがあるか」という項目の回答とのクロス集計

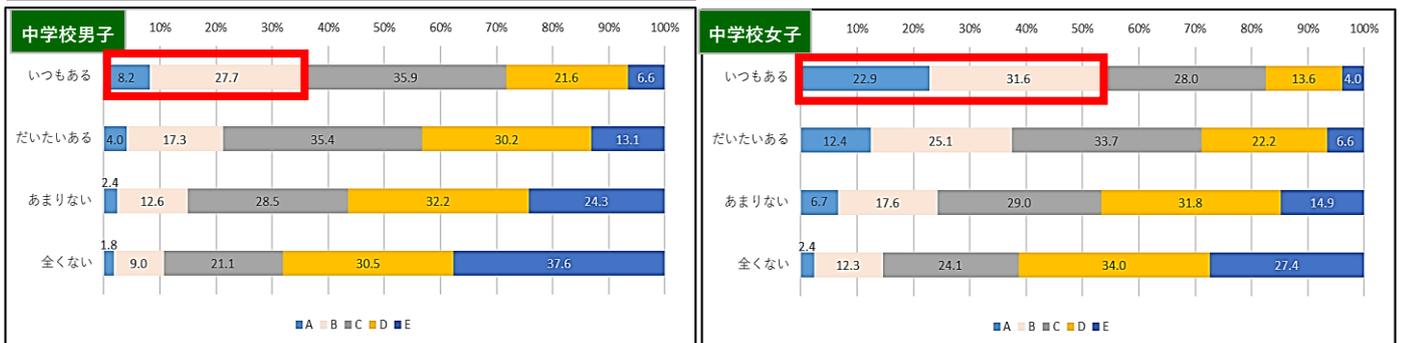
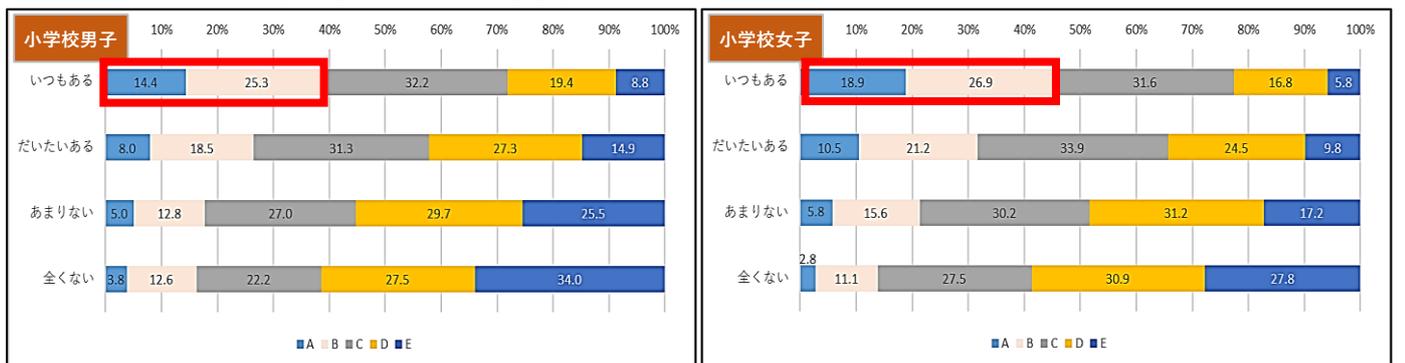


⑬「自分に合った練習の方法を選んで学習することで、『できたり、わかったり』することがあるか」という項目に対する肯定的回答の中の体力合計点総合評価A・B層及びD・E層と「体育・保健体育の授業で『できなかったことができるようになったきっかけ、理由』」の項目の回答とのクロス集計

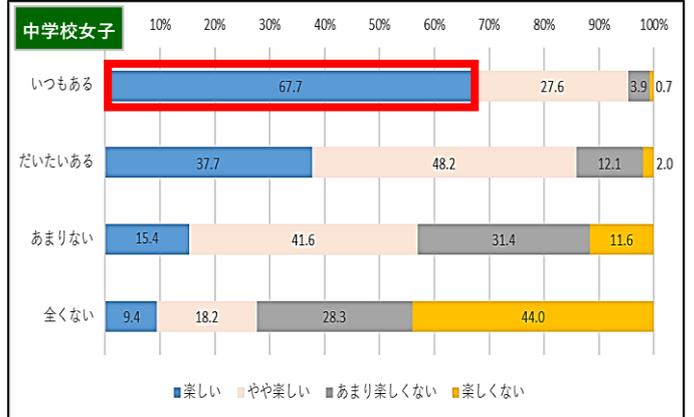
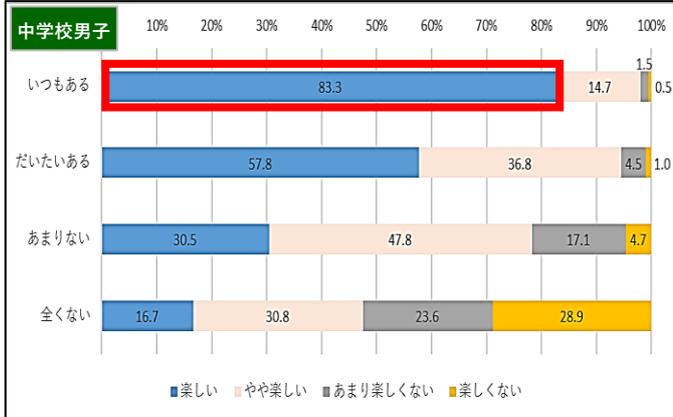
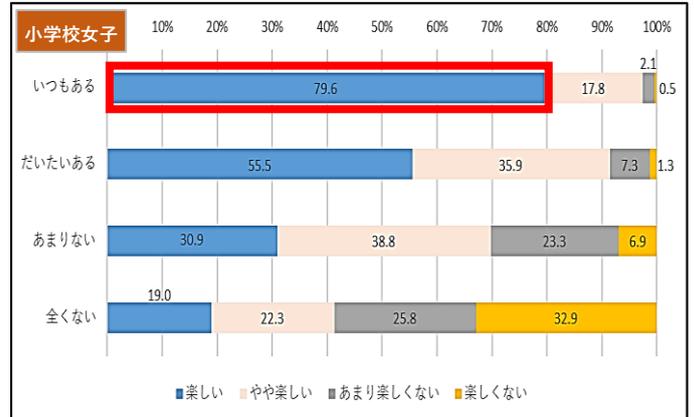
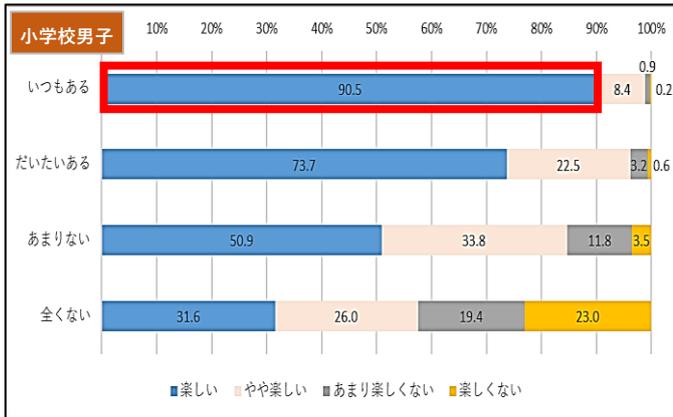


【友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで「できたり、わかったりする」ことがある×各項目のクロス集計】

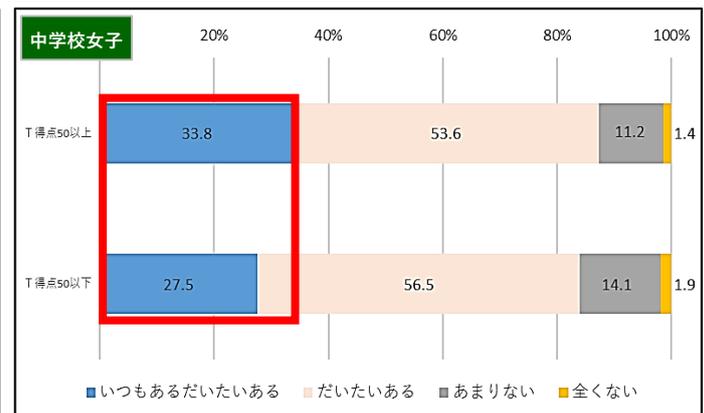
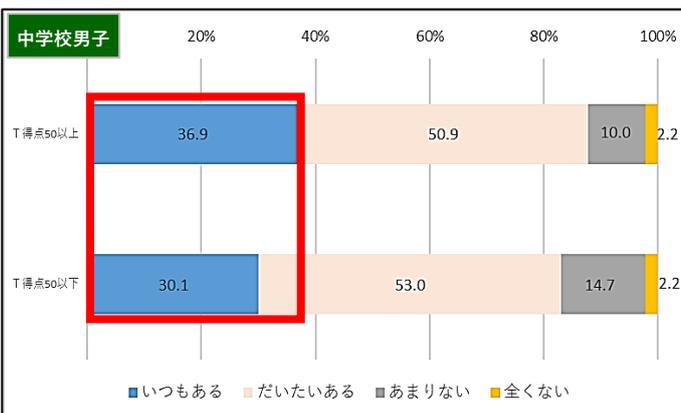
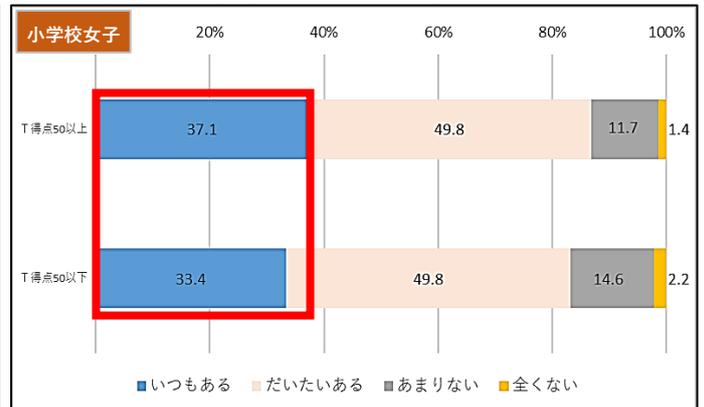
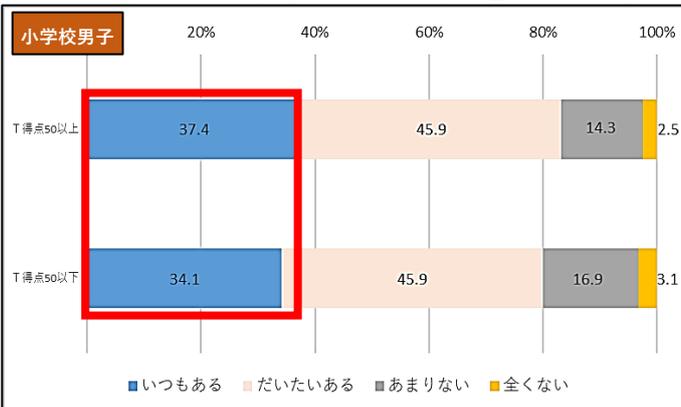
⑭「友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで『できたり、わかったりする』ことがあるか」という項目の回答と体力合計点の関係



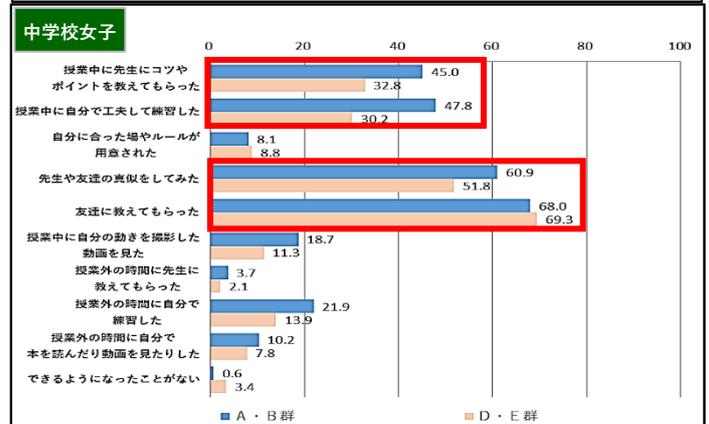
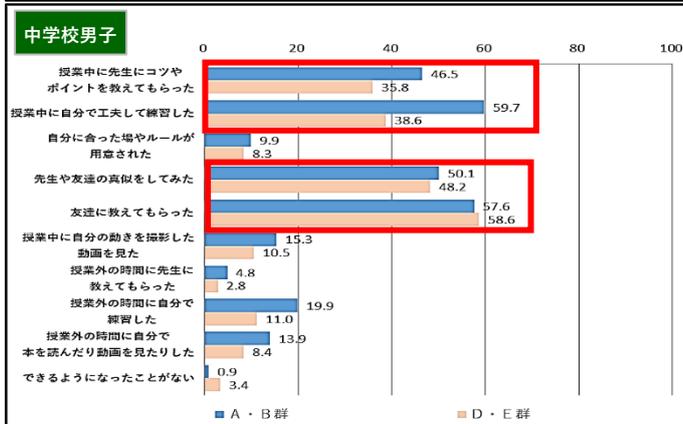
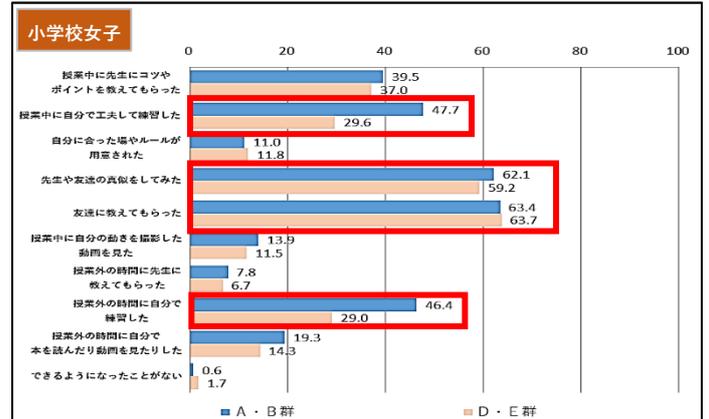
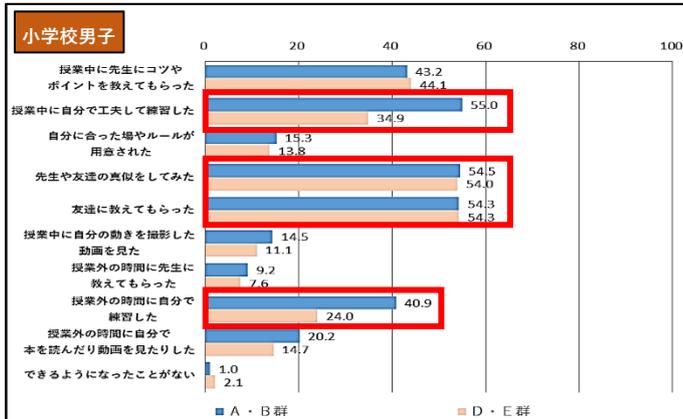
⑮「友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで『できたり、わかったりする』ことがあるか」という項目の回答と「体育・保健体育の授業の授業は楽しいか」という項目の回答とのクロス集計



⑯各学校の体力合計点と全国平均との関係と「友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで『できたり、わかったりする』ことがあるか」という項目の回答とのクロス集計

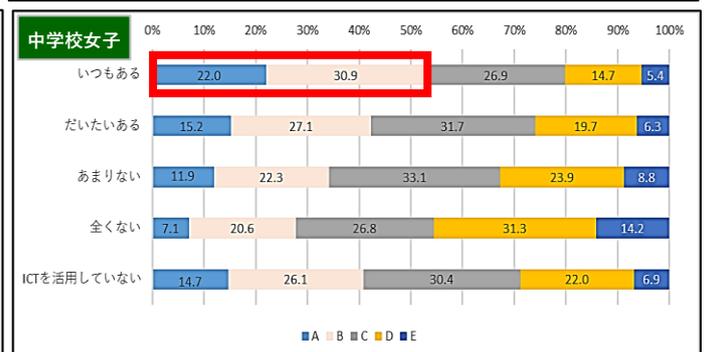
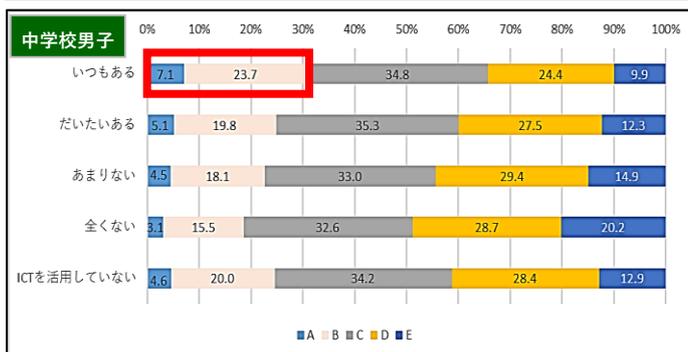
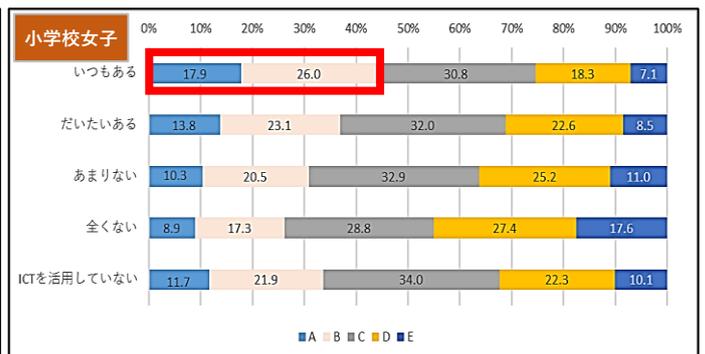
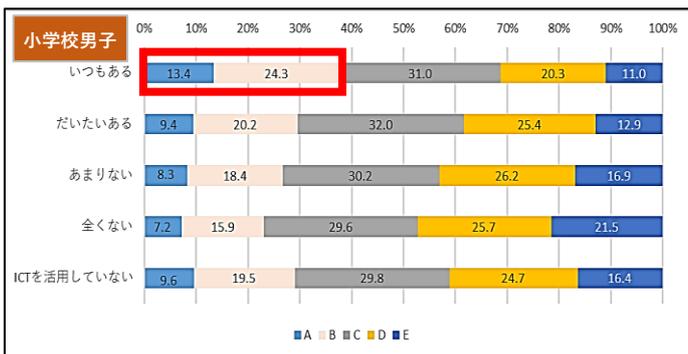


⑰「友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、『できたり、わかったり』することがあるか」という項目に対する肯定的回答の中の体力合計点の総合評価A・B層及びD・E層と「体育・保健体育の授業で『できなかったことができるようになったきっかけ、理由』」の項目の回答とのクロス集計

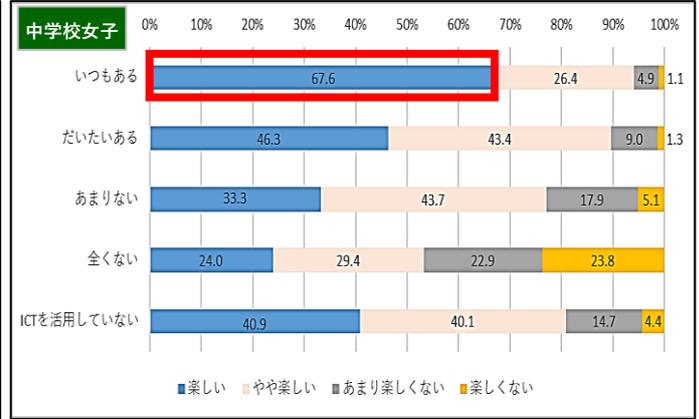
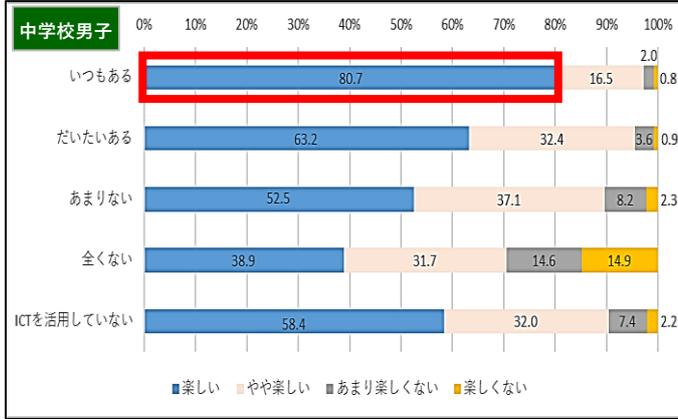
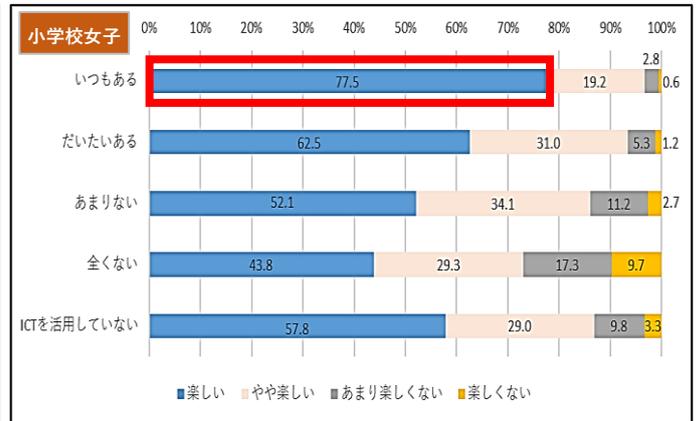
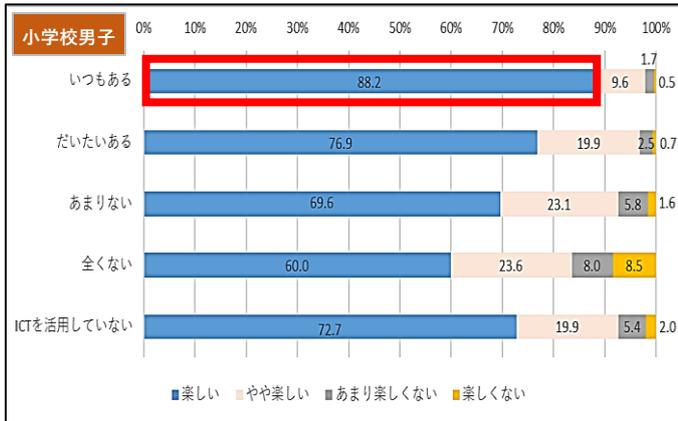


【ICTを使って学習することで「できたり、わかったりする」ことがある×各項目のクロス集計】

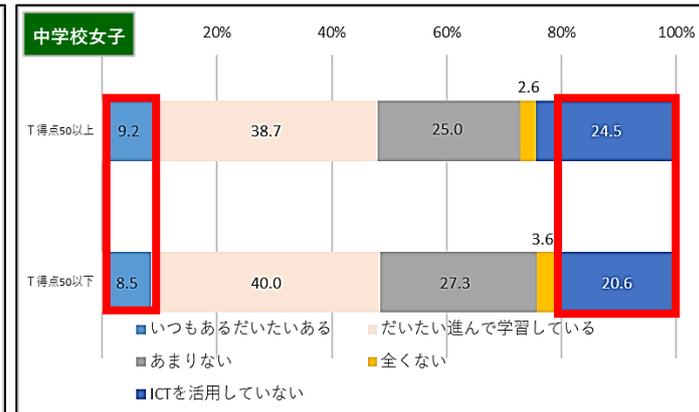
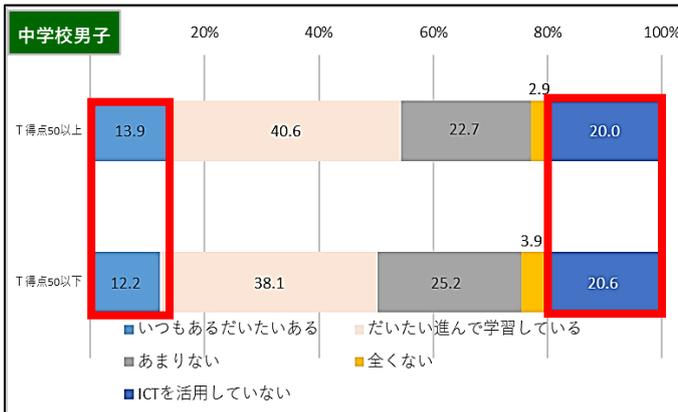
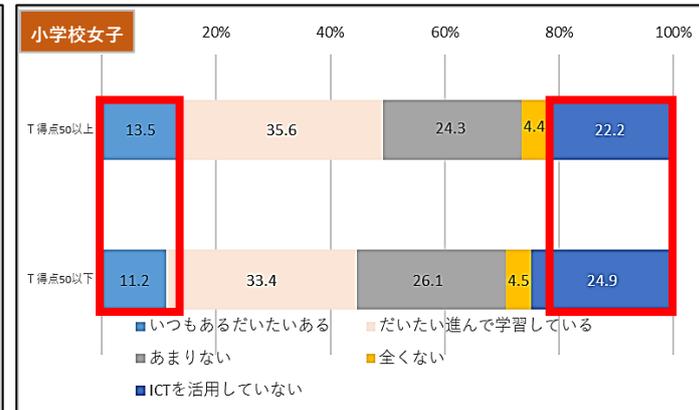
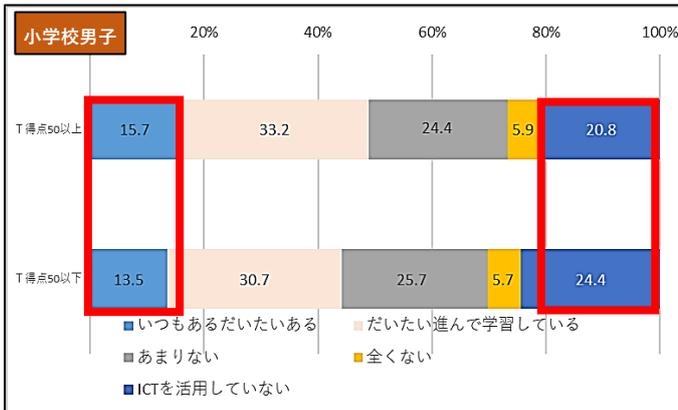
⑱「タブレットなどのICTを活用して学習することで『できたり、わかったりする』ことがあるか」という項目の回答と体力合計点の関係



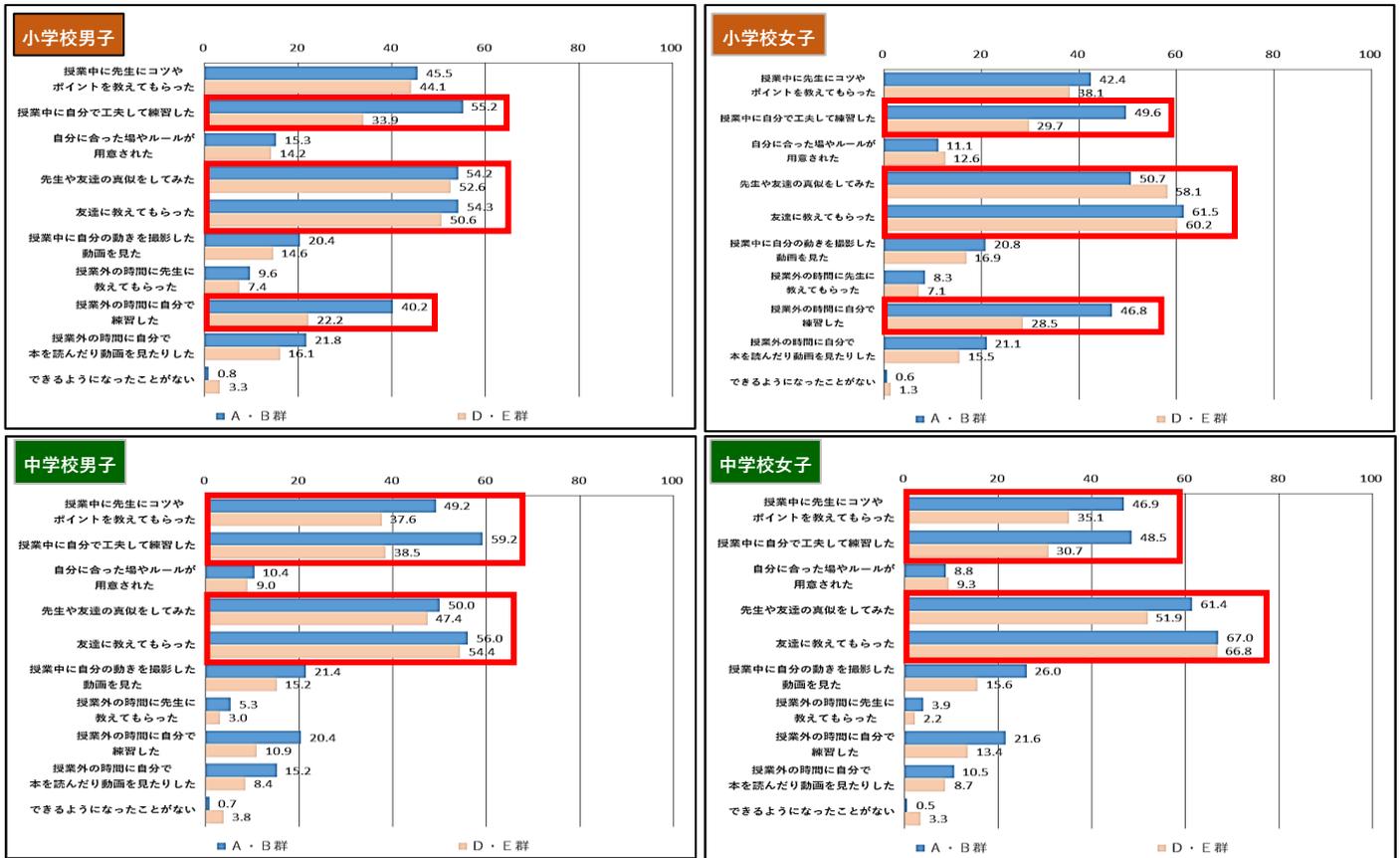
⑱ 「タブレットなどのICTを使って学習することで『できたり、わかったりする』ことがあるか」という項目の回答と「体育・保健体育の授業の授業は楽しいか」という項目の回答とのクロス集計



⑳ 「各学校の体力合計点と全国平均との関係と「タブレットなどのICTを使って学習することで『できたり、わかったりする』ことがあるか」という項目の回答とのクロス集計



⑳「タブレットなどのICTを使って学習することで、『できたり、わかったり』することがあるか」という項目に対する肯定的回答の中の体力合計点総合評価A・B層及びD・E層と「体育・保健体育の授業で『できなかったことができるようになったきっかけ、理由』」の項目の回答とのクロス集計



(4) 児童生徒質問紙調査の体育・保健体育授業に対する愛好的態度の項目の分析

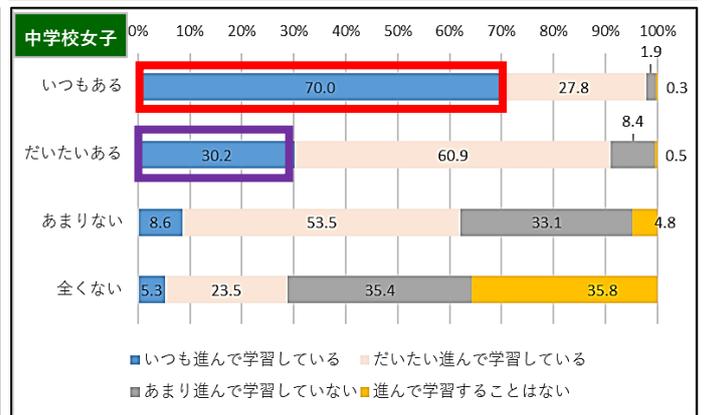
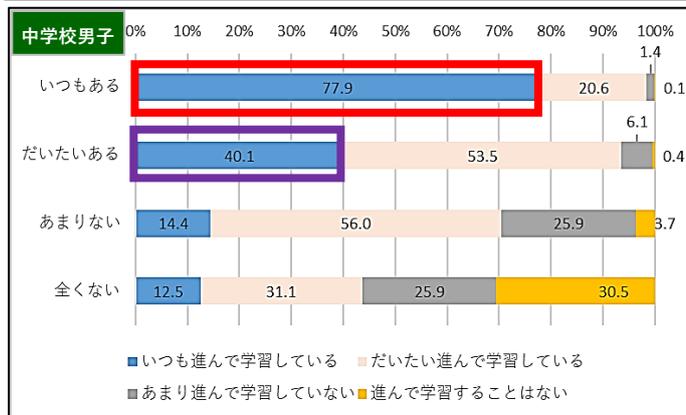
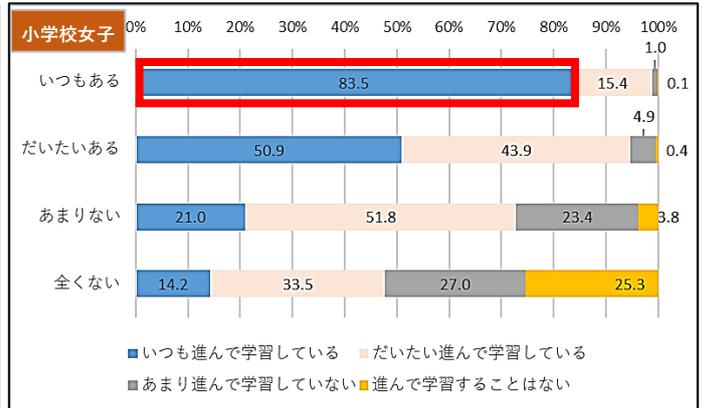
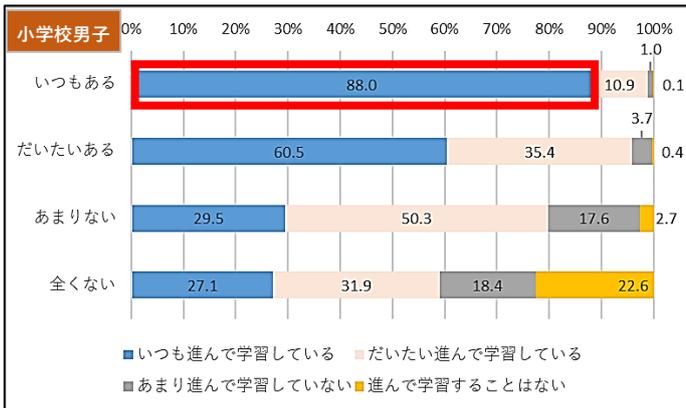
■ 体育・保健体育授業の指導の手立てに関わる項目とのクロス集計

- 体育・保健体育授業の指導の手立ての工夫によって「できた」「わかった」ことが「いつもある」と回答した児童生徒の7割以上が「いつも進んで学習している」と回答している。
- 中学校男女において、体育・保健体育授業の手立ての工夫によって「できた」「わかった」ことが「だいたいある」と回答した生徒のうち、「いつも進んで学習している」と回答した生徒の割合は、男子が4割程度、女子が3割程度である。

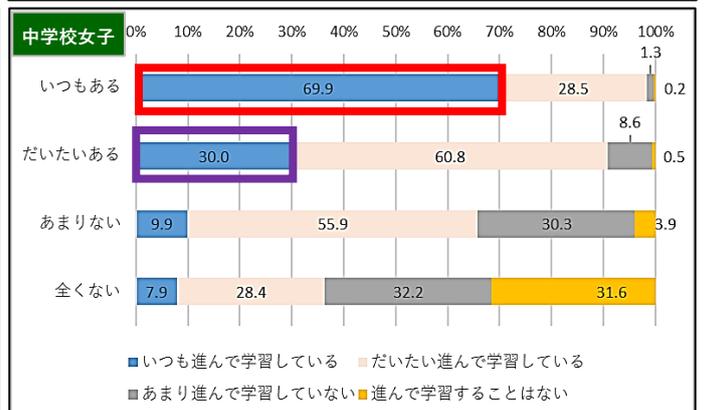
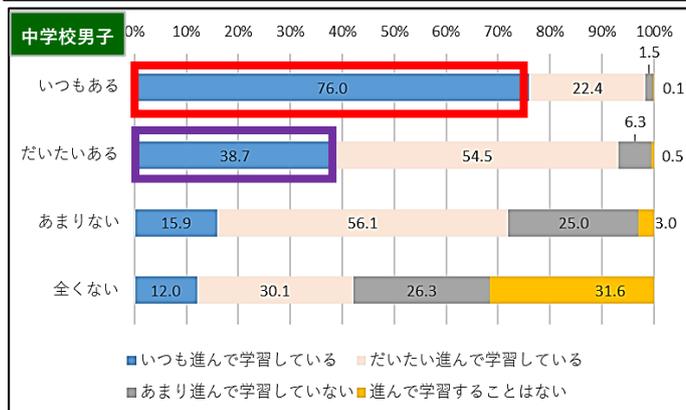
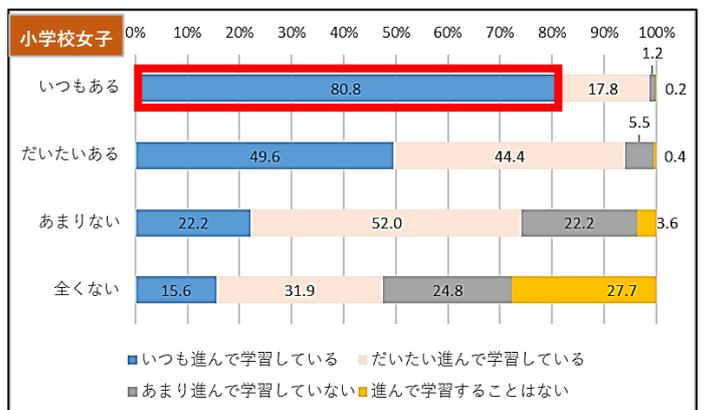
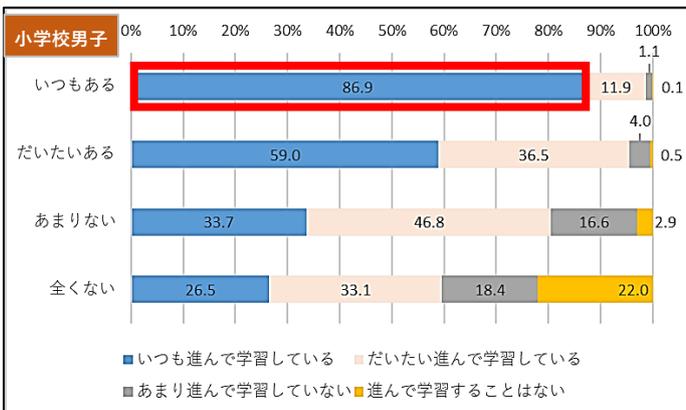
小・中学校男女ともに、教師の指導の手立てにより「できる」、「わかる」体育・保健体育授業の実現が、授業に対する愛好的態度につながっていると考えられる。

一方、中学校男女においては、教師の指導の手立てにより「できた」、「わかった」ことが「だいたいある」と肯定的に回答していても、愛好的態度に十分つながっていない状況があることから、教師の手立ての工夫の仕方について、一層の改善・充実を図る必要があると考えられる。

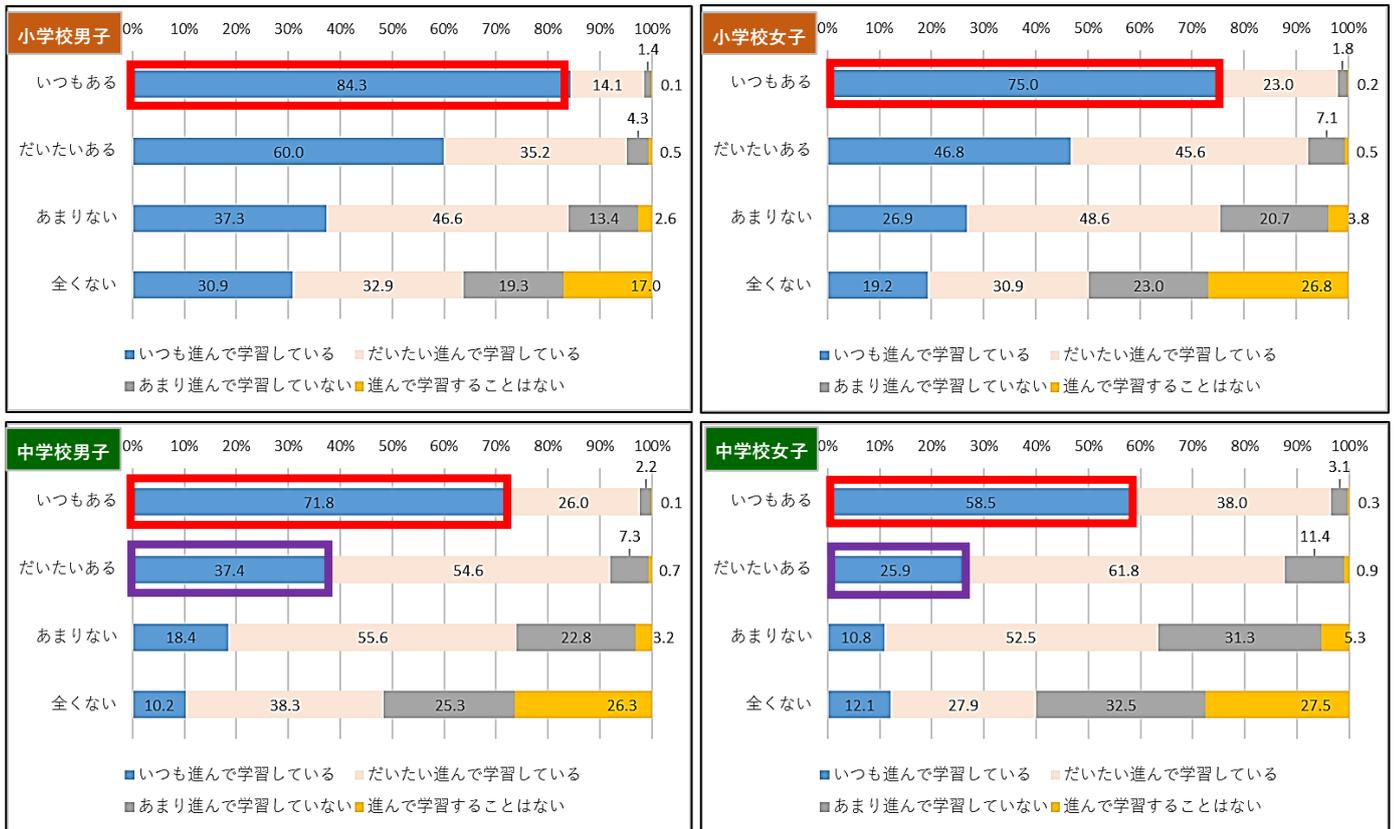
① 「目標（ねらい・めあて）を意識して学習することで『できたり、わかったり』することがある」という項目と「体育・保健体育の授業では進んで学習に参加しているか」という項目のクロス集計



② 「自分に合った練習の方法を選んで学習することで『できたり、わかったりする』ことがある」という項目と「体育・保健体育の授業では進んで学習に参加しているか」という項目のクロス集計



③ 「友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで『できたり、わかったりする』ことがある」という項目と「体育・保健体育の授業では進んで学習に参加しているか」という項目のクロス集計



まとめ

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(答申)(令和3年1月26日 中教審)では、「個別最適な学び」について「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理され、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導することの重要性が指摘されており、「個別最適な学び」について、「これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することが求められる」ことが示されている。

また、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう協働的な学びを充実することも重要であることが示されており、「協働的な学び」において、集団の中で個が埋没してしまうことがないように、「一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考えが組み合わさり、よりよい学びを生み出していくこと」が大切であることも示されている。

本分析結果においては、教師の指導の手立ての工夫が、体力合計点や体育・保健体育授業に対する愛好的態度につながっていることが明らかになった一方で、教師の指導の手立ての工夫の仕方について、今後、より一層の改善・充実が必要であることも明らかになったところである。

体育・保健体育授業の改善に向けては、Ⅲ-1「体育・保健体育授業の改善・充実に向けた取組の方向性」を踏まえ、**自己の課題に応じた活動を選択することができる場の設定や、解決方法の工夫により成功体験の積み重ねができるようにすること、仲間とともに課題解決に向け、最も適した考えや、「なるほど」と納得できる考えを生み出し、「できた」、「わかった」を実感することができる協働的な課題解決場面を設定することなど**、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが重要なポイントとなる。